

LV 7800

マルチ ラスタライザ

取扱説明書
(イーサーネット編)

目次

1.	はじめに	1
1.1	ネットワークについて.....	1
1.2	商標について.....	1
2.	TELNET	2
2.1	操作手順.....	2
2.2	コマンドの入力方法.....	3
2.3	コマンド.....	4
2.3.1	LV 7800 に関するコマンド	4
2.3.2	LV 58SER01A に関するコマンド	8
2.3.3	LV 58SER02 に関するコマンド	25
2.3.4	LV 58SER03 に関するコマンド	30
2.3.5	LV 58SER04 に関するコマンド	35
2.3.6	LV 58SER40A に関するコマンド	43
3.	FTP	54
3.1	操作手順.....	54
3.2	コマンドの入力方法.....	55
3.3	コマンド.....	55
4.	SNMP	56
4.1	操作手順.....	56
4.2	MIB.....	58
4.2.1	標準 MIB	58
4.2.2	拡張 MIB	64
4.3	拡張 TRAP	95
4.3.1	Specific Trap.....	95
4.3.2	Variable Binding List.....	96
5.	ファームウェアの変更履歴	98

1. はじめに

本書は、LV 7800 のイーサーネットコントロールについて説明したものです。その他の説明や注意事項については、LV 7800 の取扱説明書(本編)を参照してください。

1.1 ネットワークについて

イーサーネットインタフェースによる本器のリモートコントロールは、ローカルネットワーク環境のみの動作確認をしています。いかなるネットワーク環境での動作を保証するものではありません。

1.2 商標について

Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

2. TELNET

背面パネルのイーサネット端子を介して、ネットワークに接続された PC から、前面パネルのキー操作とほぼ同等の操作をリモートコントロールすることができます。

2.1 操作手順

TELNET の操作手順を以下に示します。

1. 本体で、イーサネットの設定をします。

設定が終了したら、**F.1** COMPLETE を押してください。

SYS → **F.2** PLATFORM SETUP → **F.3** NEXT

GENERAL SETUP | ETHERNET | REMOTE

LV7800 ETHERNET SETUP

Network Select DHCP IP Time Server Select ON OFF

TCP / IP

IP Address

[] . [] . [] . []

Subnet Mask

[] . [] . [] . []

Default Gateway

[] . [] . [] . []

Time Server

IP Address

[] . [] . [] . []

TimeZone Adjust

[]

MAC ADDRESS

00:00:00:00:00:00

F.1 COMPLETE	F.2 PREV	F.3 NEXT	F.4	F.5	F.6	F.7 CANCEL
-----------------	-------------	-------------	-----	-----	-----	---------------

2. 「手順 1」で設定を変更した場合は、本体の電源を入れなおします。

設定値は、電源の再投入で有効になります。

3. 本体のイーサネット端子にケーブルを接続します。

本器を PC に直接接続する場合はクロスケーブル、ハブを介して PC に接続する場合はストレートケーブルを使用します。

4. TELNET を起動します。(※1)

TELNET を起動すると、以下のように表示されます。

LV7800 login:

5. ログイン名を入力して Enter キーを押します。

ログイン名は「LV7800」です。必ず大文字で入力してください。
なお、ログイン名を変更することはできません。

LV7800 login: LV7800

6. パスワードを入力して Enter キーを押します。

パスワードは「LV7800」です。必ず大文字で入力してください。
なお、パスワードを変更することはできません。

Password: LV7800 (実際には表示されません)

7. コマンドを入力します。

パスワードを入力すると、以下のようにコマンド入力画面が表示されます。

「2.2 コマンドの入力方法」「2.3 コマンド」を参照して、コマンドを入力してください。

```
LV7800>
```

※1 Windows 7での TELNET の起動例：

スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。

「TELNET」+「スペース」+「本器の IP アドレス」を入力し、OK を押します。

(TELNET を使用するには、「コントロール パネル」→「プログラムと機能」→「Windows の機能の有効化または無効化」→「Telnet クライアント」をオンにする必要があります)

2.2 コマンドの入力方法

コマンドの書式は以下のとおりです。

```
LV7800> [コマンド] + [半角スペース] + [パラメータ 1] + [半角スペース] + [パラメータ 2]
```

● 注意事項

- ・ コマンドは大文字、小文字のどちらでも使用できます。
- ・ パラメータは、なし/1つ/2つ、のいずれかになります。
- ・ [SYS:UNIT:]で始まるコマンドは、ユニット番号を指定する必要があります。[パラメータ 1]にユニット番号(1~4)を入力してください。あるユニット番号(n)にどのユニットが装着されているかは、[SYS:UNITn_INFO]コマンドで確認します。
- ・ [WFM]、[VECT]、[PIC]、[AUDIO]、[STATUS]、[EYE]で始まる測定表示用のコマンドは、[DISPLAY]コマンドで指定されているエリアに対してのみ有効です。
また、現在の表示モードと異なるモードのコマンドを入力しても、動作には反映されません。
- ・ TELNET のフロー制御は有効にしてください。フロー制御に対応していない場合は、コマンドの高速転送時に LV 7800 が正しく動作しないことがあります。
やむをえずフロー制御を行えない場合は、コマンドの転送に 1 秒程度の間隔をあけるか、[REMOTE:REPLY]コマンドで戻り値を有効にし、ソフトウェア上でハンドシェイクを行ってください。

● コマンドの入力例

- ・ ステータス画面のエラーをリセットするとき (パラメータなし)

```
LV7800> STATUS:RESET
```

- ・ ビデオ信号波形のゲインを 5 倍にするとき (パラメータ 1 つ)

```
LV7800> WFM:GAIN:MAG X5
```

- ・ ユニット 1 にある SDI Input でレベルエラーを検出するとき (パラメータ 2 つ)

```
LV7800> SYS:UNIT:ERROR:LEVEL 1 ON
```

2. TELNET

2.3 コマンド

TELNET のコマンドは、本体のメニュー構成に準じています。動作についての詳細は、本体またはユニットの取扱説明書を参照してください。

2.3.1 LV 7800 に関するコマンド

● 前面パネル

LV 7800 (MULTI RASTERIZER)

コマンド	パラメータ 1	説明
DISPLAY	1	第 1 エリアを選択
	2	第 2 エリアを選択
	3	第 3 エリアを選択
	4	第 4 エリアを選択
	?	選択エリアの問い合わせ
MULTI	ON	マルチ画面表示を選択
	OFF	1 画面表示を選択
	?	マルチ画面表示の問い合わせ
INPUT:UNIT	UNIT1	ユニット 1 を選択
	UNIT2	ユニット 2 を選択
	UNIT3	ユニット 3 を選択
	UNIT4	ユニット 4 を選択
	?	選択ユニットの問い合わせ
INPUT:CH	A	A チャンネルを選択
	B	B チャンネルを選択
	?	入力チャンネルの問い合わせ
MODE	WFM	ビデオ信号波形表示を選択
	VECT	ベクトル波形表示を選択
	PIC	ピクチャー表示を選択
	AUDIO	オーディオ表示を選択
	STATUS	ステータス表示を選択
	EYE	アイパターン表示を選択
	?	表示モードの問い合わせ
EXT	INT	内部同期信号を選択
	EXT	外部同期信号を選択
	?	同期信号の問い合わせ
RCLL	1~60	プリセットの呼び出し
KEYLOCK	ON	キーロックを設定
	OFF	キーロックを解除
	?	キーロック状態の問い合わせ

● システム設定

LV 7800 (MULTI RASTERIZER)

コマンド	パラメータ 1	説明
SYS:PLATFORM:SOURCE_MODE	SINGLE	1 入力モードに設定
	MULTI	マルチ入力モード(ラインセレクト連動なし)に設定
	MULTI_LINE	マルチ入力モード(ラインセレクト連動あり)に設定
	?	入力モードの問い合わせ
SYS:PLATFORM:DISPLAY:MULTI_MODE	2MULTI	マルチ画面を選択時、2 画面表示にする
	4MULTI	マルチ画面を選択時、4 画面表示にする
	?	マルチ画面表示の問い合わせ
SYS:PLATFORM:WINDOW_MARKER	OFF	選択したウインドウの枠の色を無色に設定
	BLUE	選択したウインドウの枠の色を青色に設定
	WHITE	選択したウインドウの枠の色を白色に設定
	?	選択したウインドウの枠の色を問い合わせ
SYS:PLATFORM:CAPTURE_MODE	SCREEN	キャプチャモードをスクリーンキャプチャに設定
	VIDEO_FRAME	キャプチャモードをフレームキャプチャに設定
	?	キャプチャモードの問い合わせ
SYS:PLATFORM:DISPLAY:INFO:FORMAT	ON	フォーマットを表示
	OFF	フォーマットを非表示
	?	フォーマット表示の有無を問い合わせ
SYS:PLATFORM:DISPLAY:INFO:DATE	OFF	日付を非表示
	YMD	年月日の順で日付を表示
	MDY	月日年の順で日付を表示
	DMY	日月年の順で日付を表示
	?	日付表示の有無と表示タイプを問い合わせ
SYS:PLATFORM:DISPLAY:INFO:TIME	ON	時間を表示
	OFF	時間を非表示
	?	時間表示の有無を問い合わせ
SYS:PLATFORM:DISPLAY:INFO:COLOR	ON	カラーシステムを表示
	OFF	カラーシステムを非表示
	?	カラーシステム表示の有無を問い合わせ
SYS:PLATFORM:DISPLAY:INFO:INPUT	ON	入力ユニット番号と入力チャンネルを表示
	OFF	入力ユニット番号と入力チャンネルを非表示
	?	入力ユニット番号と入力チャンネル表示の有無を問い合わせ
SYS:PLATFORM:REMOTE_MODE	BIT	ビットで No. 1~8 のプリセットを呼び出し
	BINARY	バイナリーで No. 1~60 のプリセットを呼び出し
	?	リモートモードの問い合わせ
SYS:PLATFORM:ALARM:POLARITY	POSITIVE	エラー検出時、HIGH を出力
	NEGATIVE	エラー検出時、LOW を出力
	?	エラー検出時の出力極性を問い合わせ

2. TELNET

LV 7800 (MULTI RASTERIZER)

コマンド	パラメータ 1	説明
SYS:PLATFORM:ALARM1:UNIT	UNIT1	ユニット 1 のエラーを ALARM1 に出力
	UNIT2	ユニット 2 のエラーを ALARM1 に出力
	UNIT3	ユニット 3 のエラーを ALARM1 に出力
	UNIT4	ユニット 4 のエラーを ALARM1 に出力
	ALL	ユニット 1~4 のエラーを ALARM1 に出力
	?	ALARM1 にエラー出力するユニットの問い合わせ
SYS:PLATFORM:ALARM2:UNIT	UNIT1	ユニット 1 のエラーを ALARM2 に出力
	UNIT2	ユニット 2 のエラーを ALARM2 に出力
	UNIT3	ユニット 3 のエラーを ALARM2 に出力
	UNIT4	ユニット 4 のエラーを ALARM2 に出力
	ALL	ユニット 1~4 のエラーを ALARM2 に出力
	?	ALARM2 にエラー出力するユニットの問い合わせ
SYS:PLATFORM:ALARM3:UNIT	UNIT1	ユニット 1 のエラーを ALARM3 に出力
	UNIT2	ユニット 2 のエラーを ALARM3 に出力
	UNIT3	ユニット 3 のエラーを ALARM3 に出力
	UNIT4	ユニット 4 のエラーを ALARM3 に出力
	ALL	ユニット 1~4 のエラーを ALARM3 に出力
	?	ALARM3 にエラー出力するユニットの問い合わせ
SYS:PLATFORM:ALARM4:UNIT	UNIT1	ユニット 1 のエラーを ALARM4 に出力
	UNIT2	ユニット 2 のエラーを ALARM4 に出力
	UNIT3	ユニット 3 のエラーを ALARM4 に出力
	UNIT4	ユニット 4 のエラーを ALARM4 に出力
	ALL	ユニット 1~4 のエラーを ALARM4 に出力
	?	ALARM4 にエラー出力するユニットの問い合わせ
SYS:PLATFORM:ALARM1:CH	A	A チャンネルのエラーを ALARM1 に出力
	B	B チャンネルのエラーを ALARM1 に出力
	A/B	A チャンネルと B チャンネルのエラーを ALARM1 に出力
	?	ALARM1 にエラー出力するチャンネルの問い合わせ
SYS:PLATFORM:ALARM2:CH	A	A チャンネルのエラーを ALARM2 に出力
	B	B チャンネルのエラーを ALARM2 に出力
	A/B	A チャンネルと B チャンネルのエラーを ALARM2 に出力
	?	ALARM2 にエラー出力するチャンネルの問い合わせ
SYS:PLATFORM:ALARM3:CH	A	A チャンネルのエラーを ALARM3 に出力
	B	B チャンネルのエラーを ALARM3 に出力
	A/B	A チャンネルと B チャンネルのエラーを ALARM3 に出力
	?	ALARM3 にエラー出力するチャンネルの問い合わせ
SYS:PLATFORM:ALARM4:CH	A	A チャンネルのエラーを ALARM4 に出力
	B	B チャンネルのエラーを ALARM4 に出力
	A/B	A チャンネルと B チャンネルのエラーを ALARM4 に出力
	?	ALARM4 にエラー出力するチャンネルの問い合わせ

2. TELNET

LV 7800 (MULTI RASTERIZER)

コマンド	パラメータ 1	説明
SYS:PLATFORM:ERROR_BEEP	ENABLE	エラー検出時に BEEP 音を鳴らす
	DISABLE	エラー検出時に BEEP 音を鳴らさない
	?	エラー検出時の BEEP 音を鳴らすかどうか問い合わせ
SYS:DATE	YYYY/MM/DD, hh:mm:ss	日時を設定
	?	日時の問い合わせ
SYS:UNIT1_INFO	-	ユニット 1 の種別を問い合わせ
SYS:UNIT2_INFO	-	ユニット 2 の種別を問い合わせ
SYS:UNIT3_INFO	-	ユニット 3 の種別を問い合わせ
SYS:UNIT4_INFO	-	ユニット 4 の種別を問い合わせ
SYS:ASPECT	4:3	アスペクト比を 4:3 に設定
	16:9	アスペクト比を 16:9 に設定
	?	アスペクト比の問い合わせ
SYS:INIT	-	本器を初期化

● その他

LV 7800 (MULTI RASTERIZER)

コマンド	パラメータ 1	説明
REMOTE:HELP	-	コマンド一覧を表示
REMOTE:REPLY (※1)	ON	コマンドに対して応答あり
	OFF	コマンドに対して応答なし (初期設定)

※1 ON に設定すると、コマンドに対して下記のとおり応答します。

OK..... コマンドが正しく処理された場合
 ERR1..... パラメータの数が合っていない場合
 ERR2..... パラメータの値が範囲外の場合
 ERR3..... 現在の状態では機能が有効でない場合
 -rbash:[コマンド]:command not found... コマンドが間違っている場合

2.3.2 LV 58SER01Aに関するコマンド

● システム設定

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:LINK_FORMAT	1~4	SINGLE	リンクフォーマットをシングルリンクに設定
		DUAL	リンクフォーマットをデュアルリンクに設定
		2K	リンクフォーマットをデュアルリンクの 2048×1080 (2K) に設定
		?	リンクフォーマットの問い合わせ
SYS:UNIT:MANUAL_SELECT	1~4	AUTO	シングルリンク時のフォーマットを自動で設定
		MANUAL	シングルリンク時のフォーマットを手動で設定
		?	シングルリンク時のフォーマットを問い合わせ
SYS:UNIT:MANUAL_FORMAT	1~4	1080I/60	シングルリンク時のフォーマットを 1080i/60 に設定
		1080I/59.94	シングルリンク時のフォーマットを 1080i/59.94 に設定
		1080I/50	シングルリンク時のフォーマットを 1080i/50 に設定
		1080SF/30	シングルリンク時のフォーマットを 1080PsF/30 に設定
		1080SF/29.97	シングルリンク時のフォーマットを 1080PsF/29.97 に設定
		1080SF/25	シングルリンク時のフォーマットを 1080PsF/25 に設定
		1080SF/24	シングルリンク時のフォーマットを 1080PsF/24 に設定
		1080SF/23.98	シングルリンク時のフォーマットを 1080PsF/23.98 に設定
		1080P/30	シングルリンク時のフォーマットを 1080p/30 に設定
		1080P/29.97	シングルリンク時のフォーマットを 1080p/29.97 に設定
		1080P/25	シングルリンク時のフォーマットを 1080p/25 に設定
		1080P/24	シングルリンク時のフォーマットを 1080PsF/24 に設定
		1080P/23.98	シングルリンク時のフォーマットを 1080PsF/23.98 に設定

2. TELNET

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:MANUAL_FORMAT	1~4	720P/60	シングルリンク時のフォーマットを 720p/60 に設定
		720P/59.94	シングルリンク時のフォーマットを 720p/59.94 に設定
		720P/50	シングルリンク時のフォーマットを 720p/50 に設定
		720P/30	シングルリンク時のフォーマットを 720p/30 に設定
		720P/29.97	シングルリンク時のフォーマットを 720p/29.97 に設定
		720P/25	シングルリンク時のフォーマットを 720p/25 に設定
		720P/24	シングルリンク時のフォーマットを 720p/24 に設定
		720P/23.98	シングルリンク時のフォーマットを 720p/23.98 に設定
		525I/59.94	シングルリンク時のフォーマットを 525i/59.94 に設定
		625I/50	シングルリンク時のフォーマットを 625i/50 に設定
SYS:UNIT:I_PSF	1~4	INTERLACE	シングルリンク時のフォーマット表示形式をインタレースに設定
		SEG. FRAM	シングルリンク時のフォーマット表示形式をセグメントフレームに設定
		?	シングルリンク時のフォーマット表示形式を問い合わせ
SYS:UNIT:DUAL:SYSTEM	1~4	GBR_444	デュアルリンク時のカラーシステムを GBR(4:4:4) に設定
		YCBCr_422	デュアルリンク時のカラーシステムを YCbCr(4:2:2) に設定
		?	デュアルリンク時のカラーシステムを問い合わせ
SYS:UNIT:DUAL:DEPTH	1~4	10B	デュアルリンク時の 1 画素あたりの量子化ビット数を 10bit に設定
		12B	デュアルリンク時の 1 画素あたりの量子化ビット数を 12bit に設定
		?	デュアルリンク時の 1 画素あたりの量子化ビット数を問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:DUAL:SCAN	1~4	1080I	デュアルリンク時の走査方式をインタレースに設定
		1080PSF	デュアルリンク時の走査方式をセグメントフレームに設定
		1080P	デュアルリンク時の走査方式をプログレッシブに設定
		?	デュアルリンク時の走査方式を問い合わせ
SYS:UNIT:INFO:TIME_CODE	1~4	REAL	時刻表示に本体内部の時計機能を使用
		LTC	時刻表示にLTC(タイムコード)を使用
		VITC	時刻表示にVITC(タイムコード)を使用
		D_VITC	時刻表示にD-VITC(タイムコード)を使用
		?	時刻表示に使用している方法を問い合わせ
SYS:UNIT:SELECT_OUTPUT	1~4	A	シングルリンク時、OUTPUT SDI A/BはAチャンネルのリクロック出力
		A/B	シングルリンク時、OUTPUT SDI A/Bはアクティブチャンネルのリクロック出力
		?	シングルリンク時、OUTPUT SDI A/Bの設定を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:TRS	1~4	ON	TRS エラーを検出する
		OFF	TRS エラーを検出しない
		?	TRS エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_LINE	1~4	ON	ラインナンバーエラーを検出する
		OFF	ラインナンバーエラーを検出しない
		?	ラインナンバーエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_CRC	1~4	ON	CRC エラーを検出する
		OFF	CRC エラーを検出しない
		?	CRC エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_EDH	1~4	ON	EDH エラーを検出する
		OFF	EDH エラーを検出しない
		?	EDH エラー検出の有無を問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:ERROR:ILLEGAL_CODE	1~4	ON	イリーガルコードエラーを検出する
		OFF	イリーガルコードエラーを検出しない
		?	イリーガルコードエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:CABLE	1~4	ON	ケーブルエラーを検出する
		OFF	ケーブルエラーを検出しない
		?	ケーブルエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_CABLE	1~4	LS_5CFB	HD-SDI 入力時のケーブルを LS_5CFB に設定
		1694A	HD-SDI 入力時のケーブルを 1694A に設定
		L_7CHD	HD-SDI 入力時のケーブルを L_7CHD に設定
		?	HD-SDI 入力時のケーブル種を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_LENGTH	1~4	5~200	HD-SDI 入力時、エラーとするケーブル長を設定 (m)
		?	HD-SDI 入力時、エラーとするケーブル長を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_WARN	1~4	5~200	HD-SDI 入力時、警告とするケーブル長を設定 (m)
		?	HD-SDI 入力時、警告とするケーブル長を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_CABLE	1~4	L_5C2V	SD-SDI 入力時のケーブルを L_5C2V に設定
		8281?	SD-SDI 入力時のケーブルを 8281 に設定
		1505A	SD-SDI 入力時のケーブルを 1505A に設定
		?	SD-SDI 入力時のケーブル種を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_LENGTH	1~4	50~300	SD-SDI 入力時、エラーとなるケーブル長を設定 (m)
		?	SD-SDI 入力時、エラーとなるケーブル長を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_WARN	1~4	50~300	SD-SDI 入力時、警告となるケーブル長を設定 (m)
		?	SD-SDI 入力時、警告となるケーブル長を問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:ERROR:ANC:PARITY	1~4	ON	ANC データのパリティエラーを検出する
		OFF	ANC データのパリティエラーを検出しない
		?	ANC データのパリティエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:ANC:CHECKSUM	1~4	ON	ANC データのチェックサムエラーを検出する
		OFF	ANC データのチェックサムエラーを検出しない
		?	ANC データのチェックサムエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:AUDIO:BCH	1~4	ON	エンベデッドオーディオの BCH エラーを検出する
		OFF	エンベデッドオーディオの BCH エラーを検出しない
		?	エンベデッドオーディオの BCH エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:AUDIO:DBN	1~4	ON	エンベデッドオーディオの DBN エラーを検出する
		OFF	エンベデッドオーディオの DBN エラーを検出しない
		?	エンベデッドオーディオの DBN エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:AUDIO:PARITY	1~4	ON	エンベデッドオーディオのパリティエラーを検出する
		OFF	エンベデッドオーディオのパリティエラーを検出しない
		?	エンベデッドオーディオのパリティエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:AUDIO:INHIBIT	1~4	ON	エンベデッドオーディオのインヒビットエラーを検出する
		OFF	エンベデッドオーディオのインヒビットエラーを検出しない
		?	エンベデッドオーディオのインヒビットエラー検出の有無を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:ERROR:GAMUT:LPF	1~4	HD1M_SD1M	ガマットエラー検出用のLPFを1MHzに設定
		HD2.8M_SD1M	ガマットエラー検出用のLPFをHD-SDIのとき2.8MHz、SD-SDIのとき1MHzに設定
		OFF	ガマットエラー検出用のLPFをOFFに設定
		?	ガマットエラー検出用LPFの設定を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:GAMUT	1~4	ON	ガマットエラーを検出する
		OFF	ガマットエラーを検出しない
		?	ガマットエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:GAMUT:UPPER	1~4	90.8~109.4	ガマットエラーの上限值を設定(%)
		?	ガマットエラーの上限值を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:GAMUT:LOWER	1~4	-7.2~6.1	ガマットエラーの下限值を設定(%)
		?	ガマットエラーの下限值を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:GAMUT:AREA	1~4	0.1~5.0	ガマットエラー検出のための面積比を設定(%)
		?	ガマットエラー検出のための面積比を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:GAMUT:DURATION	1~4	1~60	ガマットエラーの検出期間を設定(Frames)
		?	ガマットエラーの検出期間を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:C_GAMUT	1~4	ON	コンポジットガマットエラーを検出する
		OFF	コンポジットガマットエラーを検出しない
		?	コンポジットガマットエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:C_GAMUT:SETUP	1~4	0P	コンポジット換算の際のセットアップをなしに設定
		7.5P	コンポジット換算の際のセットアップを7.5%に設定
		?	コンポジット換算の際のセットアップ値を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:ERROR:C_GAMUT:UPPER	1~4	90.0~135.0	コンポジットガマットエラーの上 限値を設定(%)
		?	コンポジットガマットエラーの上 限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:C_GAMUT:LOWER	1~4	-40.0~20.0	コンポジットガマットエラーの下 限値を設定(%)
		?	コンポジットガマットエラーの下 限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:C_GAMUT:AREA	1~4	0.1~5.0	コンポジットガマットエラーの検 出エリアを設定(%)
		?	コンポジットガマットエラーの検 出エリアを問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:C_GAMUT:DURATION	1~4	1~60	コンポジットガマットエラーの検 出期間を設定(Frames)
		?	コンポジットガマットエラーの検 出期間を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:FREEZE	1~4	ON	フリーズエラーを検出
		OFF	フリーズエラーを検出しない
		?	フリーズエラー検出の有無を問 い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:FREEZE:UPPER	1~4	0~100	フリーズエラーの検出エリア(上 側)を設定(%)
		?	フリーズエラーの検出エリア(上 側)を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:FREEZE:LOWER	1~4	0~100	フリーズエラーの検出エリア(下 側)を設定(%)
		?	フリーズエラーの検出エリア(下 側)を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:FREEZE:LEFT	1~4	0~100	フリーズエラーの検出エリア(左 側)を設定(%)
		?	フリーズエラーの検出エリア(左 側)を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:FREEZE:RIGHT	1~4	0~100	フリーズエラーの検出エリア(右 側)を設定(%)
		?	フリーズエラーの検出エリア(右 側)を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:FREEZE:DURATION	1~4	2~300	フリーズエラーの検出期間を設定 (Frames)
		?	フリーズエラーの検出期間を問 い合わせ

2. TELNET

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:ERROR:BLACK	1~4	ON	ブラックエラーを検出
		OFF	ブラックエラーを検出しない
		?	ブラックエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:BLACK:LEVEL	1~4	0~100	ブラックエラーの検出レベルを設定(%)
		?	ブラックエラーの検出レベルを問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:BLACK:AREA	1~4	1~100	ブラックエラーの検出エリアを設定(%)
		?	ブラックエラーの検出エリアを問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:BLACK:DURATION	1~4	1~300	ブラックエラーの検出期間を設定(Frames)
		?	ブラックエラーの検出期間を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:LEVEL	1~4	ON	レベルエラーを検出
		OFF	レベルエラーを検出しない
		?	レベルエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:LEVEL:RUMA:UPPER	1~4	-51~766	輝度レベルの上限値を設定(mV)
		?	輝度レベルの上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:LEVEL:RUMA:LOWER	1~4	-51~766	輝度レベルの下限値を設定(mV)
		?	輝度レベルの下限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:LEVEL:CHROMA:UPPER	1~4	-400~399	色差レベルの上限値を設定(mV)
		?	色差レベルの上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:LEVEL:CHROMA:LOWER	1~4	-400~399	色差レベルの下限値を設定(mV)
		?	色差レベルの下限値を問い合わせ

● WFM

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM	-	ビデオ信号波形を表示
WFM:CH1	ON	CH1 を表示する
	OFF	CH1 を表示しない
	?	CH1 表示の有無を問い合わせ
WFM:CH2	ON	CH2 を表示する
	OFF	CH2 を表示しない
	?	CH2 表示の有無を問い合わせ
WFM:CH3	ON	CH3 を表示する
	OFF	CH3 を表示しない
	?	CH3 表示の有無を問い合わせ
WFM:OVLAY	ON	オーバーレイ表示を設定
	OFF	パレード表示を設定
	?	表示形式の問い合わせ
WFM:INTEN:WFM	-128~127	ビデオ信号波形の輝度を設定
	?	ビデオ信号波形の輝度を問い合わせ
WFM:COLOR	WHITE	波形表示色を白色に設定
	GREEN	波形表示色を緑色に設定
	MULTI	波形表示色を Y : 薄黄、Cb : シアン、Cr : マゼンタ、G : 緑、B : 青、R : 赤に設定
	?	波形表示色を問い合わせ
WFM:INTEN:SCALE	-8~7	スケールの輝度を設定
	?	スケールの輝度を問い合わせ
WFM:SCALE:UNIT	HDV_SDP	スケールの単位を HD-SDI のとき V、SD-SDI のとき% に設定
	HDV_SDV	スケールの単位を V に設定
	HDP_SDP	スケールの単位を% に設定
	?	スケールの単位を問い合わせ
WFM:SCALE:COLOR75P	ON	75%スケールを表示
	OFF	75%スケールを非表示
	?	75%スケール表示の有無を問い合わせ
WFM:SCALE:COLOR	WHITE	スケール表示色を白色に設定
	YELLOW	スケール表示色を黄色に設定
	CYAN	スケール表示色を水色に設定
	GREEN	スケール表示色を緑色に設定
	MAGENTA	スケール表示色を紫色に設定
	RED	スケール表示色を赤色に設定
	BLUE	スケール表示色を青色に設定
	?	スケール表示色を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM:GAIN:VAR	CAL	波形の倍率を固定(×1)に設定
	VAR	波形の倍率を可変(×0.200~×2.000)に設定
	?	波形の倍率形式を問い合わせ
WFM:GAIN:VAL	0.200~2.000	波形の可変倍率を設定(倍)
	?	波形の可変倍率を問い合わせ
WFM:GAIN:MAG	X1	波形の倍率を×1に設定
	X5	波形の倍率を×5に設定
	?	波形の倍率を問い合わせ
WFM:SWEEP:SWEEP	H	掃引設定をライン表示に設定
	V	掃引設定をフィールドまたはフレーム表示に設定
	?	掃引設定の問い合わせ
WFM:SWEEP:H_SWEEP	1H	1ライン表示を設定
	2H	2ライン表示を設定
	?	ライン表示設定の問い合わせ
WFM:SWEEP:V_SWEEP	1V	入力信号がプログレッシブのときは1フレーム、インタレースまたはセグメントフレームのときは1フィールド表示を設定
	2V	1フレーム表示を設定
	?	フィールドまたはフレーム表示設定の問い合わせ
WFM:SWEEP:H_MAG	X1	ライン表示のとき掃引倍率を波形が画面に収まるように設定
	X10	ライン表示のとき掃引倍率をX1に対して10倍に設定
	X20	ライン表示のとき掃引倍率をX1に対して20倍に設定
	ACTIVE	ライン表示のときアクティブ期間の波形を拡大表示
	BLANK	ライン表示のときHブランキング期間の波形を拡大表示
?	ライン表示のとき掃引倍率の問い合わせ	
WFM:SWEEP:V_MAG	X1	フィールド(フレーム)表示のとき掃引倍率を波形が画面に収まるように設定
	X20	フィールド(フレーム)表示のとき掃引倍率をX1に対して20倍に設定
	X40	フィールド(フレーム)表示のとき掃引倍率をX1に対して40倍に設定
	?	フィールド(フレーム)表示のとき掃引倍率の問い合わせ
WFM:SWEEP:FIELD	FIELD1	フィールド1の波形を表示
	FIELD2	フィールド2の波形を表示
	?	選択フィールドの問い合わせ
WFM:LINE_SELECT	ON	ラインセレクト機能を有効にする
	OFF	ラインセレクト機能を無効にする
	?	ラインセレクト機能の問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM:LINE_FIELD	FIELD1	ラインセレクトの選択範囲をフィールド 1 に設定
	FIELD2	ラインセレクトの選択範囲をフィールド 2 に設定
	FRAME	ラインセレクトの選択範囲をフレームに設定
	?	ラインセレクトの選択範囲を問い合わせ
WFM:LINE_NUMBER	例) 1~1125 (フォーマット による)	ラインセレクトのラインを設定
	?	ラインセレクトの選択ラインを問い合わせ
WFM:FILTER:NORMAL	FLAT	コンポーネント表示時のフィルタをフラットに設定
	LOWPASS	コンポーネント表示時のフィルタを LPF に設定
	?	コンポーネント表示時のフィルタを問い合わせ
WFM:FILTER:COMPOSITE	FLAT	疑似コンポジット表示時のフィルタをフラットに設定
	FLAT_LUM	疑似コンポジット表示時のフィルタをフラットと輝度信号のパレード表示に設定
	FLAT_CHROMA	疑似コンポジット表示時のフィルタをフラットと色信号のパレード表示に設定
	?	疑似コンポジット表示時のフィルタを問い合わせ
WFM:BLANKING:NORMAL	REMOVE	コンポーネント表示時、アクティブ期間を表示
	H_VIEW	コンポーネント表示時、アクティブ期間と水平ブランキング期間を表示
	V_VIEW	コンポーネント表示時、アクティブ期間と垂直ブランキング期間を表示
	ALL_VIEW	コンポーネント表示時、入力信号の全てを表示
	?	コンポーネント表示時、ブランキング期間の表示を問い合わせ
WFM:BLANKING:COMPOSITE	REMOVE	疑似コンポジット表示時、アクティブ期間を表示
	V_VIEW	疑似コンポジット表示時、アクティブ期間と垂直ブランキング期間を表示
	?	疑似コンポジット表示時、ブランキング期間の表示を問い合わせ
WFM:PERSISTENCE	ON	残光表示ありに設定
	OFF	残光表示なしに設定
	INFINIT	波形を重ね書き
	?	残光表示の設定を問い合わせ
WFM:PERSIST_CLEAR	-	波形の重ね書きをクリア
WFM:SPECIAL_FORM	NORMAL	特殊表示をなしに設定
	TIMING	特殊表示をタイミングに設定
	4Y_PARADE	特殊表示を 4Y パレードに設定
	?	特殊表示の問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM: MATRIX	YCBCR	カラーマトリックスを YCbCr 表示に設定
	GBR	カラーマトリックスを GBR 表示に設定
	RGB	カラーマトリックスを RGB 表示に設定
	COMPOSITE	カラーマトリックスを疑似コンポジット表示に設定
	?	カラーマトリックスの問い合わせ
WFM: MATRIX: YGBR	ON	GBR 表示のとき輝度信号を表示する
	OFF	GBR 表示のとき輝度信号を表示しない
	?	GBR 表示のとき輝度信号の有無を問い合わせ
WFM: MATRIX: YRGB	ON	RGB 表示のとき輝度信号を表示する
	OFF	RGB 表示のとき輝度信号を表示しない
	?	RGB 表示のとき輝度信号の有無を問い合わせ
WFM: MATRIX: COMPOSITE: FORMAT	AUTO	疑似コンポジット表示のとき NTSC、PAL をオートで判別
	NTSC	疑似コンポジット表示のとき NTSC で表示
	PAL	疑似コンポジット表示のとき PAL で表示
	?	疑似コンポジット表示のときのフォーマットを問い合わせ
WFM: MATRIX: SETUP	0P	疑似コンポジット表示のときセットアップをなしに設定
	7.5P	疑似コンポジット表示のときセットアップを 7.5% に設定
	?	疑似コンポジット表示のときセットアップの値を問い合わせ

● VEC

コマンド	パラメータ 1	説明
VECTOR	-	ベクトル波形を表示
VECTOR: INTEN: VECTOR	-128~127	ベクトル波形の輝度を設定
	?	ベクトル波形の輝度を問い合わせ
VECTOR: COLOR	WHITE	波形表示色を白色に設定
	GREEN	波形表示色を緑色に設定
	?	波形表示色を問い合わせ
VECTOR: INTEN: SCALE	-8~7	スケールの輝度を設定
	?	スケールの輝度を問い合わせ
VECTOR: SCALE: IQ	ON	IQ 軸を表示
	OFF	IQ 軸を非表示
	?	IQ 軸表示の有無を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
VECTOR:SCALE:COLOR	WHITE	スケール表示色を白色に設定
	YELLOW	スケール表示色を黄色に設定
	CYAN	スケール表示色を水色に設定
	GREEN	スケール表示色を緑色に設定
	MAGENTA	スケール表示色を紫色に設定
	RED	スケール表示色を赤色に設定
	BLUE	スケール表示色を青色に設定
	?	スケール表示色を問い合わせ
VECTOR:GAIN:VAR	GAL	波形の倍率を固定(×1)に設定
	VAR	波形の倍率を可変(×0.200~×2.000)に設定
	?	波形の倍率形式を問い合わせ
VECTOR:GAIN:VAL	0.200~2.000	波形の可変倍率を設定(倍)
	?	波形の可変倍率を問い合わせ
VECTOR:GAIN:MAG	X1	波形の倍率を×1に設定
	X5	波形の倍率を×5に設定
	IQ	IQ信号が円周上に乗るように倍率を設定
	?	波形の倍率を問い合わせ
VECTOR:LINE_SELECT	ON	ラインセレクト機能を有効にする
	OFF	ラインセレクト機能を無効にする
	?	ラインセレクト機能の問い合わせ
VECTOR:LINE_FIELD	FIELD1	ラインセレクトの選択範囲をフィールド1に設定
	FIELD2	ラインセレクトの選択範囲をフィールド2に設定
	FRAME	ラインセレクトの選択範囲をフレームに設定
	?	ラインセレクトの選択範囲を問い合わせ
VECTOR:LINE_NUMBER	例) 1~1125 (フォーマットによる)	ラインセレクトのラインを設定
	?	ラインセレクトの選択ラインを問い合わせ
VECTOR:MATRIX	COMPONENT	カラーマトリックスをコンポーネント表示に設定
	COMPOSITE	カラーマトリックスを疑似コンポジット表示に設定
	?	カラーマトリックスの問い合わせ
VECTOR:MATRIX:COMPOSITE:FORMAT	AUTO	疑似コンポジット表示のとき NTSC、PAL を自動で切換
	NTSC	疑似コンポジット表示のとき NTSC で表示
	PAL	疑似コンポジット表示のとき PAL で表示
	?	疑似コンポジット表示のときのフォーマットを問い合わせ
VECTOR:MATRIX:SETUP	0P	疑似コンポジット表示のときセットアップをなしに設定
	7.5P	疑似コンポジット表示のときセットアップを7.5%に設定
	?	疑似コンポジット表示のときセットアップの値を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
VECTOR: MATRIX: COLORBAR	100P	スケールを 100% カラーバーに合うように設定
	75P	スケールを 75% カラーバーに合うように設定
	?	スケールの種類を問い合わせ
VECTOR: MODE	VECTOR	ベクトル波形表示に設定
	5BAR	5 バー表示に設定
	?	表示モードの問い合わせ
VECTOR: 5BAR: MATRIX	GBR	5 バー表示の表示順を GBR に設定
	RGB	5 バー表示の表示順を RGB に設定
	?	5 バー表示の表示順を問い合わせ
VECTOR: 5BAR: UNIT	MV	5 バー表示のスケール単位を mV に設定
	PER	5 バー表示のスケール単位を%に設定
	?	5 バー表示のスケール単位を問い合わせ
VECTOR: PERSISTENCE	ON	残光表示ありに設定
	OFF	残光表示なしに設定
	INFINIT	波形を重ね書きに設定
	?	残光表示の設定を問い合わせ
VECTOR: PERSIST_CLEAR	-	波形の重ね書きをクリア

● PIC

コマンド	パラメータ 1	説明
PICTURE	-	ピクチャーを表示
PICTURE: BRIGHT	-30~30	ピクチャー表示のブライトネスを設定(%)
	?	ピクチャー表示のブライトネスを問い合わせ
PICTURE: CONTRAST	0. 70~1. 30	ピクチャー表示のコントラストを設定(倍)
	?	ピクチャー表示のコントラストを問い合わせ
PICTURE: GAIN: R	0. 70~1. 30	R 信号のゲイン倍率を設定(倍)
	?	R 信号のゲイン倍率を問い合わせ
PICTURE: GAIN: G	0. 70~1. 30	G 信号のゲイン倍率を設定(倍)
	?	G 信号のゲイン倍率を問い合わせ
PICTURE: GAIN: B	0. 70~1. 30	B 信号のゲイン倍率を設定(倍)
	?	B 信号のゲイン倍率を問い合わせ
PICTURE: BIAS: R	-0. 30~0. 30	R 信号のバイアスを設定(×100%)
	?	R 信号のバイアスを問い合わせ
PICTURE: BIAS: G	-0. 30~0. 30	G 信号のバイアスを設定(×100%)
	?	G 信号のバイアスを問い合わせ
PICTURE: BIAS: B	-0. 30~0. 30	B 信号のバイアスを設定(×100%)
	?	B 信号のバイアスを問い合わせ
PICTURE: MARKER: 4_3	ON	4:3 アスペクトマーカを表示する
	OFF	4:3 アスペクトマーカを表示しない
	?	4:3 アスペクトマーカ表示の有無を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
PICTURE:MARKER:16_9	ON	16:9 アスペクトマーカを表示する
	OFF	16:9 アスペクトマーカを表示しない
	?	16:9 アスペクトマーカ表示の有無を問い合わせ
PICTURE:MARKER:SAFE_ACTION	ON	セーフアクションマーカを表示する
	OFF	セーフアクションマーカを表示しない
	?	セーフアクションマーカ表示の有無を問い合わせ
PICTURE:MARKER:SAFE_TITLE	ON	セーフタイトルマーカを表示する
	OFF	セーフタイトルマーカを表示しない
	?	セーフタイトルマーカ表示の有無を問い合わせ
PICTURE:MARKER:CENTER	ON	センターマーカを表示する
	OFF	センターマーカを表示しない
	?	センターマーカ表示の有無を問い合わせ
PICTURE:LINE_SELECT	ON	ラインセレクトマーカを表示する
	OFF	ラインセレクトマーカを表示しない
	?	ラインセレクトマーカの問い合わせ
PICTURE:LINE_FIELD	FIELD1	ラインセレクトの選択範囲をフィールド1に設定
	FIELD2	ラインセレクトの選択範囲をフィールド2に設定
	FRAME	ラインセレクトの選択範囲をフレームに設定
	?	ラインセレクトの選択範囲を問い合わせ
PICTURE:LINE_NUMBER	例) 1~1125 (フォーマット による)	ラインセレクトのラインを設定
	?	ラインセレクトの選択ラインを問い合わせ
PICTURE:SIZE	FIT	ピクチャーサイズを最適化して表示
	REAL	ビデオ信号の1サンプルを画面の1画素で表示
	FULL_FRM	ブランキング期間を含めた1フレームを表示
	?	ピクチャーサイズの問い合わせ
PICTURE:GAMUT_ERROR	ON	ガマットエラーを表示する
	OFF	ガマットエラーを表示しない
	?	ガマットエラー表示の有無を問い合わせ
PICTURE:GAMUT_PATTERN	WHITE	ガマットエラーの表示色を白色に設定
	RED	ガマットエラーの表示色を赤色に設定
	MESH	ガマットエラーの表示色を網目模様を設定
	?	ガマットエラーの表示色を問い合わせ
PICTURE:AFD	ON	AFD を表示する
	OFF	AFD を表示しない
	?	AFD 表示の有無を問い合わせ
PICTURE:S_IMPOSE:STD	OFF	クローズドキャプションデータを表示しない
	SMPTE	SMPTE クローズドキャプションデータを表示する
	ARIB	ARIB 字幕を表示する
	?	表示している CC の規格を問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	説明
PICTURE:S_IMPOSE:FMT_SMPTE	FMT_608_708	608 (708) のクローズドキャプションデータを表示する
	FMT_608_608	608 (608) のクローズドキャプションデータを表示する
	FMT_VBI	VBI のクローズドキャプションデータを表示する
	FMT_708	708 (708) のクローズドキャプションデータを表示する
	?	表示している CC のフォーマットを問い合わせ
PICTURE:S_IMPOSE:DISP_608	CC1	708 (708) 以外の CC1 を表示
	CC2	708 (708) 以外の CC2 を表示
	CC3	708 (708) 以外の CC3 を表示
	CC4	708 (708) 以外の CC4 を表示
	TEXT1	708 (708) 以外の TEXT1 を表示
	TEXT2	708 (708) 以外の TEXT2 を表示
	TEXT3	708 (708) 以外の TEXT3 を表示
	TEXT4	708 (708) 以外の TEXT4 を表示
	?	708 (708) 以外の表示している CC のタイプを問い合わせ
PICTURE:S_IMPOSE:DISP_708	1~63	708 (708) のサービス番号を設定する
	?	708 (708) のサービス番号を問い合わせ
PICTURE:S_IMPOSE:FMT_ARIB	HD	ARIB HD 字幕を表示する
	SD	ARIB SD 字幕を表示する
	ANALOG	ARIB アナログ字幕を表示する
	CELLULAR	ARIB 携帯字幕を表示する
PICTURE:S_IMPOSE:DISP_ARIB	1	ARIB 字幕の第一言語を表示する
	2	ARIB 字幕の第二言語を表示する

● STATUS

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	説明
STATUS	-	ステータスを表示
STATUS:LOG	-	イベントログ画面を表示
STATUS:LOG:LOG	START	イベントログを開始
	STOP	イベントログを停止
	?	イベントログの状態を問い合わせ
STATUS:LOG:CLEAR	-	イベントログのクリア
STATUS:LOG:MODE	OVER_WR	イベントログが 5000 を超えたとき上書き
	STOP	イベントログが 5000 を超えたとき記録しない
	?	イベントログが 5000 を超えたときの動作を問い合わせ
STATUS:DUMP	-	データダンプ画面を表示

2. TELNET

LV 58SER01A (SDI INPUT)

コマンド	パラメータ 1	説明
STATUS:DUMP:MODE	RUN	データダンプを自動更新
	HOLD	データダンプをホールド表示
	FRM_CAP	フレームキャプチャのデータダンプを表示
	?	データダンプの表示モードを問い合わせ
STATUS:DUMP:DISPLAY	SERIAL	シングルリンクのときデータダンプをシリアル表示
	COMPONENT	シングルリンクのときデータダンプをY、Cb、Cr に分離して表示
	BINARY	シングルリンクのときデータダンプをバイナリー表示
	?	シングルリンクのときデータダンプの表示形式を問い合わせ
STATUS:DUMP:DISPLAY_DUAL	A	デュアルリンクのときリンク A をシリアル表示
	B	デュアルリンクのときリンク B をシリアル表示
	A/B	デュアルリンクのときリンク A とリンク B を合成して表示
	?	デュアルリンクのときデータダンプの表示形式を問い合わせ
STATUS:DUMP:EAV	-	データダンプを EAV から表示
STATUS:DUMP:SAV	-	データダンプを SAV から表示
STATUS:DUMP:LINE_NUMBER	例) 1~1125 (フォーマットによる)	データダンプ表示のライン番号を設定
STATUS:DUMP:SAMPLE	例) 0~2199 (フォーマットによる)	データダンプ表示の先頭のサンプル番号を設定
STATUS:COUNTER	SEC	エラーカウントを 1 秒単位で更新し、回数で表示
	FIELD	エラーカウントをフィールド単位で更新し、回数で表示
	PER_FIELD	エラーカウントをフィールド単位で更新し、%表示
	?	エラーカウントの更新単位と表示単位を問い合わせ
STATUS:RESET	-	エラーカウントのクリア

2.3.3 LV 58SER02 に関するコマンド

● システム設定

LV 58SER02 (EYE PATTERN unit)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:ERROR:HD_AMP	1~4	ON	HD のとき振幅エラーを検出する
		OFF	HD のとき振幅エラーを検出しない
		?	HD のとき振幅エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_AMP:UPPER	1~4	80~140	HD のとき振幅エラーの上限値を設定(%)
		?	HD のとき振幅エラーの上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_AMP:LOWER	1~4	40~100	HD のとき振幅エラーの下限値を設定(%)
		?	HD のとき振幅エラーの下限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_RISE	1~4	ON	HD のとき立ち上がり時間のエラーを検出する
		OFF	HD のとき立ち上がり時間のエラーを検出しない
		?	HD のとき立ち上がり時間のエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_RISE:MAX	1~4	40~140	HD のとき立ち上がり時間の上限値を設定(%)
		?	HD のとき立ち上がり時間の上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_FALL	1~4	ON	HD のとき立ち下がり時間のエラーを検出する
		OFF	HD のとき立ち下がり時間のエラーを検出しない
		?	HD のとき立ち下がり時間のエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_FALL:MAX	1~4	40~140	HD のとき立ち下がり時間の上限値を設定(%)
		?	HD のとき立ち下がり時間の上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_DELTA	1~4	ON	HD のとき立ち上がり時間(Tr)-立ち下がり時間(Tf)のエラーを検出する
		OFF	HD のとき Tr-Tf エラーを検出しない
		?	HD のとき Tr-Tf エラー検出の有無を問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER02 (EYE PATTERN unit)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:ERROR:HD_DELTA:MAX	1~4	40~140	HD のとき Tr-Tf エラーの上限値を設定 (%)
		?	HD のとき Tr-Tf エラーの上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_TIMING_JIT	1~4	ON	HD のときタイミングジッタ値のエラーを検出する
		OFF	HD のときタイミングジッタ値のエラーを検出しない
		?	HD のときタイミングジッタ値のエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_TIMING_JIT:MAX	1~4	10~200	HD のときタイミングジッタの上限値を設定 (%)
		?	HD のときタイミングジッタの上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_CURRENT_JIT	1~4	ON	HD のときカレントジッタ値のエラーを検出する
		OFF	HD のときカレントジッタ値のエラーを検出しない
		?	HD のときカレントジッタ値のエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:HD_CURRENT_JIT:MAX	1~4	10~200	HD のときカレントジッタの上限値を設定 (%)
		?	HD のときカレントジッタの上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_AMP	1~4	ON	SD のとき振幅エラーを検出する
		OFF	SD のとき振幅エラーを検出しない
		?	SD のとき振幅エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_AMP:UPPER	1~4	80~140	SD のとき振幅エラーの上限値を設定 (%)
		?	SD のとき振幅エラーの上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_AMP:LOWER	1~4	40~100	SD のとき振幅エラーの下限値を設定 (%)
		?	SD のとき振幅エラーの下限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_RISE	1~4	ON	SD のとき立ち上がり時間のエラーを検出する
		OFF	SD のとき立ち上がり時間のエラーを検出しない
		?	SD のとき立ち上がり時間のエラー検出の有無を問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER02 (EYE PATTERN unit)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:ERROR:SD_RISE:MAX	1~4	40~140	SD のとき立ち上がり時間の上限値を設定(%)
		?	SD のとき立ち上がり時間の上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_FALL	1~4	ON	SD のとき立ち下がり時間のエラーを検出する
		OFF	SD のとき立ち下がり時間のエラーを検出しない
		?	SD のとき立ち上がり時間のエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_FALL:MAX	1~4	40~140	SD のとき立ち下がり時間の上限値を設定(%)
		?	SD のとき立ち下がり時間の上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_DELTA	1~4	ON	SD のとき立ち上がり時間(Tr)-立ち下がり時間(Tf)のエラーを検出
		OFF	SD のとき Tr-Tf エラーを検出しない
		?	SD のとき Tr-Tf エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_DELTA:MAX	1~4	40~140	SD のとき Tr-Tf エラーの上限値を設定(%)
		?	SD のとき Tr-Tf エラーの上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_TIMING_JIT	1~4	ON	SD のときタイミングジッタ値のエラーを検出
		OFF	SD のときタイミングジッタ値のエラーを検出しない
		?	SD のときタイミングジッタ値のエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_TIMING_JIT:MAX	1~4	10~200	SD のときタイミングジッタの上限値を設定(%)
		?	SD のときタイミングジッタの上限値を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_CURRENT_JIT	1~4	ON	SD のときカレントジッタ値のエラーを検出
		OFF	SD のときカレントジッタ値のエラーを検出しない
		?	SD のときカレントジッタ値のエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SD_CURRENT_JIT:MAX	1~4	10~200	SD のときカレントジッタの上限値を設定(%)
		?	SD のときカレントジッタの上限値を問い合わせ

● EYE

LV 58SER02 (EYE PATTERN unit)

コマンド	パラメータ 1	説明
EYE	-	アイパターン波形を表示
EYE:INTEN:EYE	-128~127	アイパターン波形の輝度を設定
	?	アイパターン波形の輝度を問い合わせ
EYE:INTEN:SCALE	-8~7	スケールの輝度を設定
	?	スケールの輝度を問い合わせ
EYE:MODE	EYE	アイパターン波形を表示する
	JITTER	ジッタ波形を表示する
	?	表示波形の問い合わせ
EYE:AUTO_MEASURE	ON	アイパターン波形を自動測定する
	OFF	アイパターン波形を自動測定しない
	?	アイパターン波形の自動測定の状態を問い合わせ
EYE:GAIN:VAR	CAL	アイパターン波形の倍率を固定(×1)に設定
	VAR	アイパターン波形の倍率を可変(×0.50~×2.00)に設定
	?	アイパターン波形の倍率形式を問い合わせ
EYE:GAIN:VAL	0.50~2.00	アイパターン波形の可変倍率を設定(倍)
	?	アイパターン波形の可変倍率を問い合わせ
EYE:SWEEP:SWEEP	2UI	アイパターン波形の表示期間を 2UI に設定
	4UI	アイパターン波形の表示期間を 4UI に設定
	16UI	アイパターン波形の表示期間を 16UI に設定
	?	アイパターン波形の表示期間を問い合わせ
EYE:FILTER	100KHZ	アイパターン波形のときジッタの測定帯域を 100kHz 以上に設定
	1KHZ	アイパターン波形のときジッタの測定帯域を 1kHz 以上に設定
	100HZ	アイパターン波形のときジッタの測定帯域を 100Hz 以上に設定
	10HZ	アイパターン波形のときジッタの測定帯域を 10Hz 以上に設定
	TIMING	アイパターン波形のときジッタの測定帯域を 10Hz 以上(タイミングジッタ)に設定
	ALIGNMENT	アイパターン波形のときジッタの測定帯域を HD-SDI のときは 100kHz 以上、SD-SDI のときは 1kHz 以上(アライメントジッタ)に設定
	?	アイパターン波形のときジッタのフィルタ帯域を問い合わせ
EYE:JITTER:PEAK_HOLD	ON	ジッタ波形のピーク値を保持する
	OFF	ジッタ波形のピーク値を保持しない
	?	ジッタ波形のピーク値の保持状態を問い合わせ
EYE:JITTER:PEAK_CLEAR	-	ジッタ波形のピーク値をクリア

2. TELNET

LV 58SER02 (EYE PATTERN unit)

コマンド	パラメータ 1	説明
EYE:JITTER:GAIN	X1	ジッタ波形の倍率を×1に設定
	X2	ジッタ波形の倍率を×2に設定
	X8	ジッタ波形の倍率を×8に設定
	?	ジッタ波形の倍率を問い合わせ
EYE:JITTER:SWEEP	1H	ジッタ波形を1ビデオライン分表示
	2H	ジッタ波形を2ビデオライン分表示
	1V	ジッタ波形を1ビデオフィールド分表示
	2V	ジッタ波形を2ビデオフィールド分表示
	?	ジッタ波形の表示期間を問い合わせ
EYE:JITTER:FILTER	100KHZ	ジッタ波形のときジッタの測定帯域を100kHz以上に設定
	1KHZ	ジッタ波形のときジッタの測定帯域を1kHz以上に設定
	100HZ	ジッタ波形のときジッタの測定帯域を100Hz以上に設定
	10HZ	ジッタ波形のときジッタの測定帯域を10Hz以上に設定
	TIMING	ジッタ波形のときジッタの測定帯域を10Hz以上(タイミングジッタ)に設定
	ALIGNMENT	ジッタ波形のときジッタの測定帯域をHD-SDIのときは100kHz以上、SD-SDIのときは1kHz以上(アライメントジッタ)に設定
	?	アイパターン波形のときジッタのフィルタ帯域を問い合わせ

2.3.4 LV 58SER03 に関するコマンド

● WFM

LV 58SER03 (COMPOSITE VIDEO INPUT)

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM	-	ビデオ信号波形を表示
WFM:INTEN:WFM	-128~127	ビデオ信号波形の輝度を設定
	?	ビデオ信号波形の輝度を問い合わせ
WFM:COLOR	WHITE	波形表示色を白色に設定
	GREEN	波形表示色を緑色に設定
	?	波形表示色を問い合わせ
WFM:INTEN:SCALE	-8~7	スケールの輝度を設定
	?	スケールの輝度を問い合わせ
WFM:SCALE:COLOR	WHITE	スケール表示色を白色に設定
	YELLOW	スケール表示色を黄色に設定
	CYAN	スケール表示色を水色に設定
	GREEN	スケール表示色を緑色に設定
	MAGENTA	スケール表示色を紫色に設定
	RED	スケール表示色を赤色に設定
	BLUE	スケール表示色を青色に設定
	?	スケール表示色を問い合わせ
WFM:GAIN:VAR	CAL	波形の倍率を固定($\times 1$)に設定
	VAR	波形の倍率を可変($\times 0.200 \sim \times 2.000$)に設定
	?	波形の倍率形式を問い合わせ
WFM:GAIN:VAL	0.200~2.000	波形の可変倍率を設定(倍)
	?	波形の可変倍率を問い合わせ
WFM:GAIN:MAG	X1	波形の倍率を $\times 1$ に設定
	X5	波形の倍率を $\times 5$ に設定
	?	波形の倍率を問い合わせ
WFM:FILTER:NORMAL	FLAT	フィルタをフラットに設定
	LOWPASS	フィルタをLPFに設定
	?	フィルタの種類を問い合わせ
WFM:SWEEP:SWEEP	H	掃引設定をライン表示に設定
	V	掃引設定をフィールド表示に設定
	?	掃引設定の問い合わせ
WFM:SWEEP:H_SWEEP	1H	1ライン表示を設定
	2H	2ライン表示を設定
	?	ライン表示設定の問い合わせ
WFM:SWEEP:V_SWEEP	1V	1フィールド表示を設定
	2V	1フレーム表示を設定
	?	フィールドまたはフレーム表示設定の問い合わせ
WFM:SWEEP:H_MAG	X1	ライン表示のとき掃引倍率を波形が画面に収まるように設定
	X10	ライン表示のとき掃引倍率をX1に対して10倍に設定
	X20	ライン表示のとき掃引倍率をX1に対して20倍に設定
	?	ライン表示のとき掃引倍率の問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM:SWEEP:V_MAG	X1	フィールド表示のとき掃引倍率を波形が画面に収まるように設定
	X20	フィールド表示のとき掃引倍率を X1 に対して 10 倍に設定
	X40	フィールド表示のとき掃引倍率を X1 に対して 40 倍に設定
	?	フィールド表示のとき掃引倍率の問い合わせ
WFM:LINE_SELECT	ON	ラインセレクト機能を有効にする
	OFF	ラインセレクト機能を無効にする
	?	ラインセレクト機能の問い合わせ
WFM:LINE_FIELD	FIELD1	ラインセレクトの選択範囲をフィールド 1 に設定
	FIELD2	ラインセレクトの選択範囲をフィールド 2 に設定
	FRAME	ラインセレクトの選択範囲をフレームに設定
	?	ラインセレクトの選択範囲を問い合わせ
WFM:LINE_NUMBER	ex) 1~525 (フォーマットによる)	ラインセレクトのラインを設定
	?	ラインセレクトの選択ラインを問い合わせ
WFM:PERSISTENCE	ON	残光表示ありに設定
	OFF	残光表示なしに設定
	INFINIT	波形を重ね書き
	?	残光表示の設定を問い合わせ
WFM:PERSIST_CLEAR	-	波形の重ね書きをクリア
WFM:SPECIAL_FORM	NORMAL	特殊表示をなしに設定
	4_PARADE	特殊表示を 4 パレードに設定
	?	特殊表示の問い合わせ

● VEC

コマンド	パラメータ 1	説明
VECTOR	-	ベクトル波形を表示
VECTOR:PHASE	0.0~359.9	ベクトル波形の位相を設定(°)
	?	ベクトル波形の位相を問い合わせ
VECTOR:INTEN:VECTOR	-128~127	ベクトル波形の輝度を設定
	?	ベクトル波形の輝度を問い合わせ
VECTOR:COLOR	WHITE	波形表示色を白色に設定
	GREEN	波形表示色を緑色に設定
	?	波形表示色を問い合わせ
VECTOR:INTEN:SCALE	-8~7	スケールの輝度を設定
	?	スケールの輝度を問い合わせ
VECTOR:SCALE:IQ	ON	IQ 軸を表示する
	OFF	IQ 軸を表示しない
	?	IQ 軸表示の有無を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
VECTOR:SCALE:COLOR	WHITE	スケール表示色を白色に設定
	YELLOW	スケール表示色を黄色に設定
	CYAN	スケール表示色を水色に設定
	GREEN	スケール表示色を緑色に設定
	MAGENTA	スケール表示色を紫色に設定
	RED	スケール表示色を赤色に設定
	BLUE	スケール表示色を青色に設定
	?	スケール表示色を問い合わせ
VECTOR:GAIN:VAR	CAL	波形の倍率を固定($\times 1$)に設定
	VAR	波形の倍率を可変($\times 0.200 \sim \times 2.000$)に設定
	?	波形の倍率形式を問い合わせ
VECTOR:GAIN:VAL	0.200~2.000	波形の可変倍率を設定(倍)
	?	波形の可変倍率を問い合わせ
VECTOR:GAIN:MAG	X1	波形の倍率を $\times 1$ に設定
	X5	波形の倍率を $\times 5$ に設定
	IQ	IQ信号が円周上に乗るように倍率を設定
	?	波形の倍率を問い合わせ
VECTOR:LINE_SELECT	ON	ラインセレクト機能を有効にする
	OFF	ラインセレクト機能を無効にする
	?	ラインセレクト機能の問い合わせ
VECTOR:LINE_FIELD	FIELD1	ラインセレクトの選択範囲をフィールド1に設定
	FIELD2	ラインセレクトの選択範囲をフィールド2に設定
	FRAME	ラインセレクトの選択範囲をフレームに設定
	?	ラインセレクトの選択範囲を問い合わせ
VECTOR:LINE_NUMBER	例) 1~525 (フォーマットによる)	ラインセレクトのラインを設定
	?	ラインセレクトの選択ラインを問い合わせ
VECTOR:MATRIX:SETUP	0P	セットアップをなしに設定
	7.5P	セットアップを7.5%に設定
	?	セットアップの値を問い合わせ
VECTOR:MATRIX:COLORBAR	100P	スケールを100%カラーバーに合うように設定
	75P	スケールを75%カラーバーに合うように設定
	?	スケールの種類を問い合わせ
VECTOR:NTSC_DISPLAY	ON	入力信号がPALのときNTSC表示をする
	OFF	入力信号がPALのときNTSC表示をしない
	?	入力信号がPALのときNTSC表示をするか問い合わせ
VECTOR:FD:MODE	PHASE	ファンクションダイヤルの動作を位相調整に設定
	LINE_SELECT	ファンクションダイヤルの動作をラインセレクトに設定
	?	ファンクションダイヤルの動作を問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER03 (COMPOSITE VIDEO INPUT)

コマンド	パラメータ 1	説明
VECTOR:PERSISTENCE	ON	残光表示ありに設定
	OFF	残光表示なしに設定
	INFINIT	波形を重ね書き
	?	残光表示の設定を問い合わせ
VECTOR:PERSIST_CLEAR	-	波形の重ね書きをクリア
VECTOR:SCH	ON	SCH 測定をする
	OFF	SCH 測定をしない
	?	SCH 測定の有無を問い合わせ

● PIC

LV 58SER03 (COMPOSITE VIDEO INPUT)

コマンド	パラメータ 1	説明
PICTURE	-	ピクチャーを表示
PICTURE:BRIGHT	-30~30	ピクチャー表示のブライトネスを設定 (%)
	?	ピクチャー表示のブライトネスを問い合わせ
PICTURE:CONTRAST	0.70~1.30	ピクチャー表示のコントラストを設定 (倍)
	?	ピクチャー表示のコントラストを問い合わせ
PICTURE:GAIN:R	0.70~1.30	R 信号の倍率を設定 (倍)
	?	R 信号の倍率を問い合わせ
PICTURE:GAIN:G	0.70~1.30	G 信号の倍率を設定 (倍)
	?	G 信号の倍率を問い合わせ
PICTURE:GAIN:B	0.70~1.30	B 信号の倍率を設定 (倍)
	?	B 信号の倍率を問い合わせ
PICTURE:BIAS:R	-0.30~0.30	R 信号のバイアスを設定 (×100%)
	?	R 信号のバイアスを問い合わせ
PICTURE:BIAS:G	-0.30~0.30	G 信号のバイアスを設定 (×100%)
	?	G 信号のバイアスを問い合わせ
PICTURE:BIAS:B	-0.30~0.30	B 信号のバイアスを設定 (×100%)
	?	B 信号のバイアスを問い合わせ
PICTURE:MARKER:16_9	ON	16:9 アスペクトマーカを表示する
	OFF	16:9 アスペクトマーカを表示しない
	?	16:9 アスペクトマーカ表示の設定を問い合わせ
PICTURE:MARKER:SAFE_ACTION	ON	セーフアクションマーカを表示する
	OFF	セーフアクションマーカを表示しない
	?	セーフアクションマーカ表示の設定を問い合わせ
PICTURE:MARKER:SAFE_TITLE	ON	セーフタイトルマーカを表示する
	OFF	セーフタイトルマーカを表示しない
	?	セーフタイトルマーカ表示の設定を問い合わせ
PICTURE:MARKER:CENTER	ON	センターマーカを表示する
	OFF	センターマーカを表示しない
	?	センターマーカ表示の設定を問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER03 (COMPOSITE VIDEO INPUT)

コマンド	パラメータ 1	説明
PICTURE:LINE_SELECT	ON	ラインセレクト機能を有効にする
	OFF	ラインセレクト機能を無効にする
	?	ラインセレクト機能の問い合わせ
PICTURE:LINE_FIELD	FIELD1	ラインセレクトの選択範囲をフィールド 1 に設定
	FIELD2	ラインセレクトの選択範囲をフィールド 2 に設定
	FRAME	ラインセレクトの選択範囲をフレームに設定
	?	ラインセレクトの選択範囲を問い合わせ
PICTURE:LINE_NUMBER	例) 1~525 (フォーマット による)	ラインセレクトのラインを設定
	?	ラインセレクトの選択ラインを問い合わせ
PICTURE:SIZE	FIT	ピクチャーサイズを最適化して表示
	REAL	ビデオ信号の 1 画素を画面の 1 画素で表示
	FULL_FRM	ブランキング期間を含めた 1 フレームを表示
	?	ピクチャーサイズの問い合わせ

● STATUS

LV 58SER03 (COMPOSITE VIDEO INPUT)

コマンド	パラメータ 1	説明
STATUS	-	ステータスを表示

2.3.5 LV 58SER04 に関するコマンド

● システム設定

LV 58SER04 (MPEG DECODER)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:SEMI_AUTO	1~4	ON	デコード PID の選択方法を自動的に設定
		OFF	デコード PID の選択方法を手動に設定
		?	デコード PID の選択方法を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:SYNC_BYTE	1~4	ON	Sync Byte エラーを検出する
		OFF	Sync Byte エラーを検出しない
		?	Sync Byte エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:CONTINUITY	1~4	ON	Continuity エラーを検出する
		OFF	Continuity エラーを検出しない
		?	Continuity エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PAT	1~4	ON	PAT エラーを検出する
		OFF	PAT エラーを検出しない
		?	PAT エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PAT:CYCLE	1~4	100~800	PAT エラーとなる周期を設定 (msec)
		?	PAT エラーとなる周期を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PMT	1~4	ON	PMT エラーを検出する
		OFF	PMT エラーを検出しない
		?	PMT エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PMT:CYCLE	1~4	100~800	PMT エラーとなる周期を設定 (msec)
		?	PMT エラーとなる周期を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PID	1~4	ON	PID エラーを検出する
		OFF	PID エラーを検出しない
		?	PID エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PID:CYCLE	1~4	1~20	PID エラーとなる PMT の受信回数を設定 (section)
		?	PID エラーとなる PMT の受信回数を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:TRANSPORT	1~4	ON	Transport エラーを検出する
		OFF	Transport エラーを検出しない
		?	Transport エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:CRC_MPEG	1~4	ON	CRC エラーを検出する
		OFF	CRC エラーを検出しない
		?	CRC エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PCR	1~4	ON	PCR エラーを検出する
		OFF	PCR エラーを検出しない
		?	PCR エラー検出の有無を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:ERROR:PCR:CYCLE	1~4	10~200	PCR エラーとなる周期を設定 (msec)
		?	PCR エラーとなる周期を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PCR:ACCURACY	1~4	ON	PCR 精度エラーを検出する
		OFF	PCR 精度エラーを検出しない
		?	PCR 精度エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PTS	1~4	ON	PTS エラーを検出する
		OFF	PTS エラーを検出しない
		?	PTS エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PTS:CYCLE	1~4	100~800	PTS エラーとなる周期を設定 (msec)
		?	PTS エラーとなる周期を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:CAT	1~4	ON	CAT エラーを検出する
		OFF	CAT エラーを検出しない
		?	CAT エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:CAT:CYCLE	1~4	0.1~20.0	CAT エラーとなる周期を設定 (sec)
		?	CAT エラーとなる周期を問い合わせ

● WFM

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM	-	ビデオ信号波形を表示
WFM:CH1	ON	CH1 を表示する
	OFF	CH1 を表示しない
	?	CH1 表示の有無を問い合わせ
WFM:CH2	ON	CH2 を表示する
	OFF	CH2 を表示しない
	?	CH2 表示の有無を問い合わせ
WFM:CH3	ON	CH3 を表示する
	OFF	CH3 を表示しない
	?	CH3 表示の有無を問い合わせ
WFM:OVLAY	ON	オーバーレイ表示を設定
	OFF	パレード表示を設定
	?	表示形式の問い合わせ
WFM:INTEN:WFM	-128~127	ビデオ信号波形の輝度を設定
	?	ビデオ信号波形の輝度を問い合わせ
WFM:COLOR	WHITE	波形表示色を白色に設定
	GREEN	波形表示色を緑色に設定
	MULTI	波形表示色を Y: 薄黄、Cb: シアン、Cr: マゼンタ、G: 緑、B: 青、R: 赤に設定
	?	波形表示色を問い合わせ
WFM:INTEN:SCALE	-8~7	スケールの輝度を設定
	?	スケールの輝度を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM:SCALE:UNIT	HDV_SDP	スケールの単位を HD のとき V、SD のとき % に設定
	HDV_SDV	スケールの単位を V に設定
	HDP_SDP	スケールの単位を % に設定
	?	スケールの単位を問い合わせ
WFM:SCALE:COLOR75P	ON	75%スケールを表示
	OFF	75%スケールを非表示
	?	75%スケール表示の有無を問い合わせ
WFM:SCALE:COLOR	WHITE	スケール表示色を白色に設定
	YELLOW	スケール表示色を黄色に設定
	CYAN	スケール表示色を水色に設定
	GREEN	スケール表示色を緑色に設定
	MAGENTA	スケール表示色を紫色に設定
	RED	スケール表示色を赤色に設定
	BLUE	スケール表示色を青色に設定
	?	スケール表示色を問い合わせ
WFM:GAIN:VAR	CAL	波形の倍率を固定 ($\times 1$) に設定
	VAR	波形の倍率を可変 ($\times 0.200 \sim \times 2.000$) に設定
	?	波形の倍率形式を問い合わせ
WFM:GAIN:VAL	0.200~2.000	波形の可変倍率を設定 (倍)
	?	波形の可変倍率を問い合わせ
WFM:GAIN:MAG	X1	波形の倍率を $\times 1$ に設定
	X5	波形の倍率を $\times 5$ に設定
	?	波形の倍率を問い合わせ
WFM:SWEEP:SWEEP	H	掃引設定をライン表示に設定
	V	掃引設定をフィールドまたはフレーム表示に設定
	?	掃引設定の問い合わせ
WFM:SWEEP:H_SWEEP	1H	1 ライン表示を設定
	2H	2 ライン表示を設定
	?	ライン表示設定の問い合わせ
WFM:SWEEP:V_SWEEP	1V	入力信号がプログレッシブのときは 1 フレーム、インタレースまたはセグメントフレームのときは 1 フィールド表示を設定
	2V	1 フレーム表示を設定
	?	フィールドまたはフレーム表示設定の問い合わせ
WFM:SWEEP:H_MAG	X1	ライン表示のとき掃引倍率を波形が画面に収まるように設定
	X10	ライン表示のとき掃引倍率を X1 に対して 10 倍に設定
	X20	ライン表示のとき掃引倍率を X1 に対して 20 倍に設定
	ACTIVE	ライン表示のときアクティブ期間の波形を拡大表示
	?	ライン表示のとき掃引倍率の問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM:SWEEP:V_MAG	X1	フィールド(フレーム)表示のとき掃引倍率を波形が画面に収まるように設定
	X20	フィールド(フレーム)表示のとき掃引倍率を X1 に対して 20 倍に設定
	X40	フィールド(フレーム)表示のとき掃引倍率を X1 に対して 40 倍に設定
	?	フィールド(フレーム)表示のとき掃引倍率の問い合わせ
WFM:SWEEP:FIELD	FIELD1	フィールド 1 の波形を表示
	FIELD2	フィールド 2 の波形を表示
	?	選択フィールドの問い合わせ
WFM:LINE_SELECT	ON	ラインセレクト機能を有効にする
	OFF	ラインセレクト機能を無効にする
	?	ラインセレクト機能の問い合わせ
WFM:LINE_FIELD	FIELD1	ラインセレクトの選択範囲をフィールド 1 に設定
	FIELD2	ラインセレクトの選択範囲をフィールド 2 に設定
	FRAME	ラインセレクトの選択範囲をフレームに設定
	?	ラインセレクトの選択範囲を問い合わせ
WFM:LINE_NUMBER	例) 1~1125 (フォーマットによる)	ラインセレクトのラインを設定
	?	ラインセレクトの選択ラインを問い合わせ
WFM:FILTER:NORMAL	FLAT	コンポーネント表示時のフィルタをフラットに設定
	LOWPASS	コンポーネント表示時のフィルタを LPF に設定
	?	コンポーネント表示時のフィルタを問い合わせ
WFM:FILTER:COMPOSITE	FLAT	疑似コンポジット表示時のフィルタをフラットに設定
	FLAT_LUM	疑似コンポジット表示時のフィルタをフラットと輝度信号のパレード表示に設定
	FLAT_CHROMA	疑似コンポジット表示時のフィルタをフラットと色信号のパレード表示に設定
	?	疑似コンポジット表示時のフィルタを問い合わせ
WFM:PERSISTENCE	ON	残光表示ありに設定
	OFF	残光表示なしに設定
	INFINIT	波形を重ね書き
	?	残光表示の設定を問い合わせ
WFM:PERSIST_CLEAR	-	波形の重ね書きをクリア
WFM:MATRIX	YCBCR	カラーマトリックスを YCbCr 表示に設定
	GBR	カラーマトリックスを GBR 表示に設定
	RGB	カラーマトリックスを RGB 表示に設定
	COMPOSITE	カラーマトリックスを疑似コンポジット表示に設定
	?	カラーマトリックスの問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
WFM:MATRIX:YGBR	ON	GBR 表示のとき輝度信号を表示する
	OFF	GBR 表示のとき輝度信号を表示しない
	?	GBR 表示のとき輝度信号の有無を問い合わせ
WFM:MATRIX:YRGB	ON	RGB 表示のとき輝度信号を表示する
	OFF	RGB 表示のとき輝度信号を表示しない
	?	RGB 表示のとき輝度信号の有無を問い合わせ
WFM:MATRIX:COMPOSITE:FORMAT	AUTO	疑似コンポジット表示のとき NTSC、PAL をオートで判別
	NTSC	疑似コンポジット表示のとき NTSC で表示
	PAL	疑似コンポジット表示のとき PAL で表示
	?	疑似コンポジット表示のときのフォーマットを問い合わせ
WFM:MATRIX:SETUP	0P	疑似コンポジット表示のときセットアップをなしに設定
	7.5P	疑似コンポジット表示のときセットアップを 7.5% に設定
	?	疑似コンポジット表示のときセットアップの値を問い合わせ

● VEC

コマンド	パラメータ 1	説明
VECTOR	-	ベクトル波形を表示
VECTOR:INTEN:VECTOR	-128~127	ベクトル波形の輝度を設定
	?	ベクトル波形の輝度を問い合わせ
VECTOR:COLOR	WHITE	波形表示色を白色に設定
	GREEN	波形表示色を緑色に設定
	?	波形表示色を問い合わせ
VECTOR:INTEN:SCALE	-8~7	スケールの輝度を設定
	?	スケールの輝度を問い合わせ
VECTOR:SCALE:IQ	ON	IQ 軸を表示
	OFF	IQ 軸を非表示
	?	IQ 軸表示の有無を問い合わせ
VECTOR:SCALE:COLOR	WHITE	スケール表示色を白色に設定
	YELLOW	スケール表示色を黄色に設定
	CYAN	スケール表示色を水色に設定
	GREEN	スケール表示色を緑色に設定
	MAGENTA	スケール表示色を紫色に設定
	RED	スケール表示色を赤色に設定
	BLUE	スケール表示色を青色に設定
	?	スケール表示色を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
VECTOR:GAIN:VAR	CAL	波形の倍率を固定(×1)に設定
	VAR	波形の倍率を可変(×0.200~×2.000)に設定
	?	波形の倍率形式を問い合わせ
VECTOR:GAIN:VAL	0.200~2.000	波形の可変倍率を設定(倍)
	?	波形の可変倍率を問い合わせ
VECTOR:GAIN:MAG	X1	波形の倍率を×1に設定
	X5	波形の倍率を×5に設定
	IQ	IQ信号が円周上に乗るように倍率を設定
	?	波形の倍率を問い合わせ
VECTOR:LINE_SELECT	ON	ラインセレクト機能を有効にする
	OFF	ラインセレクト機能を無効にする
	?	ラインセレクト機能の問い合わせ
VECTOR:LINE_FIELD	FIELD1	ラインセレクトの選択範囲をフィールド1に設定
	FIELD2	ラインセレクトの選択範囲をフィールド2に設定
	FRAME	ラインセレクトの選択範囲をフレームに設定
	?	ラインセレクトの選択範囲を問い合わせ
VECTOR:LINE_NUMBER	例) 1~1125 (フォーマット による)	ラインセレクトのラインを設定
	?	ラインセレクトの選択ラインを問い合わせ
VECTOR:MATRIX	COMPONENT	カラーマトリックスをコンポーネント表示に設定
	COMPOSITE	カラーマトリックスを疑似コンポジット表示に設定
	?	カラーマトリックスの問い合わせ
VECTOR:MATRIX:COMPOSITE:FORMAT	AUTO	疑似コンポジット表示のとき NTSC、PAL を自動で切換
	NTSC	疑似コンポジット表示のとき NTSC で表示
	PAL	疑似コンポジット表示のとき PAL で表示
	?	疑似コンポジット表示のときのフォーマットを問い合わせ
VECTOR:MATRIX:SETUP	0P	疑似コンポジット表示のときセットアップをなしに設定
	7.5P	疑似コンポジット表示のときセットアップを7.5%に設定
	?	疑似コンポジット表示のときセットアップの値を問い合わせ
VECTOR:MATRIX:COLORBAR	100P	スケールを100%カラーバーに合うように設定
	75P	スケールを75%カラーバーに合うように設定
	?	スケールの種類を問い合わせ
VECTOR:PERSISTENCE	ON	残光表示ありに設定
	OFF	残光表示なしに設定
	INFINIT	波形を重ね書きに設定
	?	残光表示の設定を問い合わせ
VECTOR:PERSIST_CLEAR	-	波形の重ね書きをクリア

コマンド	パラメータ 1	説明
PICTURE	-	ピクチャーを表示
PICTURE:BRIGHT	-30~30	ピクチャー表示のブライトネスを設定(%)
	?	ピクチャー表示のブライトネスを問い合わせ
PICTURE:CONTRAST	0.70~1.30	ピクチャー表示のコントラストを設定(倍)
	?	ピクチャー表示のコントラストを問い合わせ
PICTURE:GAIN:R	0.70~1.30	R信号のゲイン倍率を設定(倍)
	?	R信号のゲイン倍率を問い合わせ
PICTURE:GAIN:G	0.70~1.30	G信号のゲイン倍率を設定(倍)
	?	G信号のゲイン倍率を問い合わせ
PICTURE:GAIN:B	0.70~1.30	B信号のゲイン倍率を設定(倍)
	?	B信号のゲイン倍率を問い合わせ
PICTURE:BIAS:R	-0.30~0.30	R信号のバイアスを設定(×100%)
	?	R信号のバイアスを問い合わせ
PICTURE:BIAS:G	-0.30~0.30	G信号のバイアスを設定(×100%)
	?	G信号のバイアスを問い合わせ
PICTURE:BIAS:B	-0.30~0.30	B信号のバイアスを設定(×100%)
	?	B信号のバイアスを問い合わせ
PICTURE:MARKER:4_3	ON	4:3アスペクトマーカを表示する
	OFF	4:3アスペクトマーカを表示しない
	?	4:3アスペクトマーカ表示の有無を問い合わせ
PICTURE:MARKER:16_9	ON	16:9アスペクトマーカを表示する
	OFF	16:9アスペクトマーカを表示しない
	?	16:9アスペクトマーカ表示の有無を問い合わせ
PICTURE:MARKER:SAFE_ACTION	ON	セーフアクションマーカを表示する
	OFF	セーフアクションマーカを表示しない
	?	セーフアクションマーカ表示の有無を問い合わせ
PICTURE:MARKER:SAFE_TITLE	ON	セーフタイトルマーカを表示する
	OFF	セーフタイトルマーカを表示しない
	?	セーフタイトルマーカ表示の有無を問い合わせ
PICTURE:MARKER:CENTER	ON	センターマーカを表示する
	OFF	センターマーカを表示しない
	?	センターマーカ表示の有無を問い合わせ
PICTURE:LINE_SELECT	ON	ラインセレクトマーカを表示する
	OFF	ラインセレクトマーカを表示しない
	?	ラインセレクトマーカの問い合わせ
PICTURE:LINE_FIELD	FIELD1	ラインセレクトの選択範囲をフィールド1に設定
	FIELD2	ラインセレクトの選択範囲をフィールド2に設定
	FRAME	ラインセレクトの選択範囲をフレームに設定
	?	ラインセレクトの選択範囲を問い合わせ
PICTURE:LINE_NUMBER	例) 1~1125 (フォーマット による)	ラインセレクトのラインを設定
	?	ラインセレクトの選択ラインを問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER04 (MPEG DECODER)

コマンド	パラメータ 1	説明
PICTURE:SIZE	FIT	ピクチャーサイズを最適化して表示
	REAL	ビデオ信号の 1 サンプルを画面の 1 画素で表示
	?	ピクチャーサイズの間い合わせ

● STATUS

LV 58SER04 (MPEG DECODER)

コマンド	パラメータ 1	説明
STATUS	-	ステータスを表示

2.3.6 LV 58SER40Aに関するコマンド

● システム設定

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
SYS:UNIT:EXT_BNC	1~4	INPUT	全ての背面 BNC を入力に設定
		OUTPUT	全ての背面 BNC を出力に設定
		?	背面 BNC の設定を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:LEVEL_OVER	1~4	ON	レベルオーバーエラーを検出する
		OFF	レベルオーバーエラーを検出しない
		?	レベルオーバーエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:CLIP	1~4	ON	クリップエラーを検出する
		OFF	クリップエラーを検出しない
		?	クリップエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:CLIP:DURATION	1~4	1~100	クリップエラーの検出期間を設定 (sample)
		?	クリップエラーの検出期間を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:MUTE	1~4	ON	ミュートエラーを検出する
		OFF	ミュートエラーを検出しない
		?	ミュートエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:MUTE:DURATION	1~4	1~5000	ミュートエラーの検出期間を設定 (ms)
		?	ミュートエラーの検出期間を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:PARITY	1~4	ON	パリティエラーを検出する
		OFF	パリティエラーを検出しない
		?	パリティエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:VARIDITY	1~4	ON	バリディティエラーを検出する
		OFF	バリディティエラーを検出しない
		?	バリディティエラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:CRC	1~4	ON	CRC エラーを検出する
		OFF	CRC エラーを検出しない
		?	CRC エラー検出の有無を問い合わせ
SYS:UNIT:ERROR:CODE	1~4	ON	コードバイオレーションエラーを検出する
		OFF	コードバイオレーションエラーを検出しない
		?	コードバイオレーションエラー検出の有無を問い合わせ

● AUDIO

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO	-	オーディオを表示
AUDIO:CH_SEL:NUMBER	8CH	測定チャンネル数を 8ch に設定
	16CH	測定チャンネル数を 16ch に設定
	?	測定チャンネル数の問い合わせ
AUDIO:CH_SEL:DISPLAY	1_8CH	測定チャンネル数が 8ch のとき測定対象を 1~8ch に設定
	9_16CH	測定チャンネル数が 8ch のとき測定対象を 9~16ch に設定
	?	測定チャンネル数が 8ch のときの測定対象を問い合わせ
AUDIO:DISPLAY_MODE	LISSAJOU	リサーチ波形を表示する
	S_IMAGE	音像波形を表示する
	STATUS	オーディオのステータス画面を表示する
	METER	メーター画面を表示する
	LOUDNESS	ラウドネス画面を表示する
	?	オーディオの表示画面を問い合わせ
AUDIO:METER:D_RANGE	M60DBFS	メーターのスケールを-60~0dBFS に設定
	M90DBFS	メーターのスケールを-90~0dBFS に設定
	?	メーターのスケールを問い合わせ
AUDIO:METER:RESPONSE	TRUE_PEAK	レベルメーターの応答モデルを TRUE PEAK に設定
	PPM	レベルメーターの応答モデルを PPM に設定
	PPM1	レベルメーターの応答モデルを PPM1 に設定
	PPM2	レベルメーターの応答モデルを PPM2 に設定
	VU_TRUE_PEAK	レベルメーターの応答モデルを VU、ピークホールドメーターの応答モデルを TRUE PEAK に設定
	VU_PPM	レベルメーターの応答モデルを VU、ピークホールドメーターの応答モデルを PPM に設定
	VU_PPM1	レベルメーターの応答モデルを VU、ピークホールドメーターの応答モデルを PPM1 に設定
	VU_PPM2	レベルメーターの応答モデルを VU、ピークホールドメーターの応答モデルを PPM2 に設定
	LOUDNESS_F	レベルメーターの応答モデルを LOUDNESS-F に設定
	LOUDNESS_S	レベルメーターの応答モデルを LOUDNESS-S に設定
	?	メーターの応答モデルを問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO:METER:PEAK_HOLD	0.5SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 0.5sec に設定
	1SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 1sec に設定
	1.5SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 1.5sec に設定
	2SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 2sec に設定
	2.5SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 2.5sec に設定
	3SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 3sec に設定
	3.5SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 3.5sec に設定
	4SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 4sec に設定
	4.5SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 4.5sec に設定
	5SEC	ピークホールドメーターのピーク保持時間を 5sec に設定
	HOLD	ピークホールドメーターのピーク値を保持
?	ピークホールドメーターの保持時間を問い合わせ	
AUDIO:METER:OVER_LEVEL	-40.0~0.0	オーバーレベルを設定 (dBFS)
	?	オーバーレベルを問い合わせ
AUDIO:METER:WARNING_LEVEL	-40.0~0.0	ウォーニングレベルを設定 (dBFS)
	?	ウォーニングレベルを問い合わせ
AUDIO:METER:REF_LEVEL	-40.0~0.0	基準レベルを設定 (dBFS)
	?	基準レベルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:INTEN:LISSAJOU	-128~127	リサージュ波形の輝度を設定
	?	リサージュ波形の輝度を問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:INTEN:SCALE	-8~7	スケールの輝度を設定
	?	スケールの輝度を問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:DISPLAY	SINGLE	シングルリサージュ画面を表示
	MULTI	マルチリサージュ画面を表示
	?	リサージュ表示画面を問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:FORM	X-Y	R 軸を水平、L 軸を垂直に配置
	MATRIX	R 軸、L 軸を X-Y に対して 45° 傾けた位置に配置
	?	R 軸、L 軸の表示方式を問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:AUTO_GAIN	ON	リサージュ波形のゲインを自動調整
	OFF	リサージュ波形のゲインを自動調整しない
	?	リサージュ波形のゲイン自動調整の状態を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO:LISSAJOU:MAP:SINGLE_L	CH1~CH16	シングルリサージュ波形のL軸に割り当てるチャンネルを設定
	LT	シングルリサージュ波形のL軸に割り当てるチャンネルをLt(ダウンミックス)に設定
	?	シングルリサージュ波形のL軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:SINGLE_R	CH1~CH16	シングルリサージュ波形のR軸に割り当てるチャンネルを設定
	RT	シングルリサージュ波形のR軸に割り当てるチャンネルをRt(ダウンミックス)に設定
	?	シングルリサージュ波形のR軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_L1	CH1~CH16	マルチリサージュ波形のL1軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形のL1軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_R1	CH1~CH16	マルチリサージュ波形のR1軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形のR1軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_L2	CH1~CH16	マルチリサージュ波形のL2軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形のL2軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_R2	CH1~CH16	マルチリサージュ波形のR2軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形のR2軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_L3	CH1~CH16	マルチリサージュ波形のL3軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形のL3軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_R3	CH1~CH16	マルチリサージュ波形のR3軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形のR3軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_L4	CH1~CH16	マルチリサージュ波形のL4軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形のL4軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_R4	CH1~CH16	マルチリサージュ波形の R4 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形の R4 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_L5	CH1~CH16	マルチリサージュ波形の L5 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形の L5 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_R5	CH1~CH16	マルチリサージュ波形の R5 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形の R5 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_L6	CH1~CH16	マルチリサージュ波形の L6 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形の L6 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_R6	CH1~CH16	マルチリサージュ波形の R6 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形の R6 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_L7	CH1~CH16	マルチリサージュ波形の L7 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形の L7 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_R7	CH1~CH16	マルチリサージュ波形の R7 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形の R7 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_L8	CH1~CH16	マルチリサージュ波形の L8 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形の L8 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:LISSAJOU:MAP:MULTI_R8	CH1~CH16	マルチリサージュ波形の R8 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	マルチリサージュ波形の R8 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:INTEN:S_IMAGE	-128~127	画像波形の輝度を設定
	?	画像波形の輝度を問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:INTEN:SCALE	-8~7	スケールの輝度を設定
	?	スケールの輝度を問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO:S_IMAGE:SURROUND	3_1	音像波形を 3-1 形式で表示
	3_2	音像波形を 3-2 形式で表示
	3_2_2	音像波形を 3-2-2 形式で表示
	?	音像波形の表示形式を問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:AUTO_GAIN	ON	音像波形のゲインを自動調整
	OFF	音像波形のゲインを自動調整しない
	?	音像波形のゲイン自動調整の有無を問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:MAP:L	CH1~CH16	音像波形の L 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	音像波形の L 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:MAP:R	CH1~CH16	音像波形の R 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	音像波形の R 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:MAP:C	CH1~CH16	音像波形の C 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	音像波形の C 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:MAP:LFE	CH1~CH16	音像波形の LFE 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	音像波形の LFE 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:MAP:LS	CH1~CH16	音像波形の LS 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	音像波形の LS 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:MAP:RS	CH1~CH16	音像波形の RS 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	音像波形の RS 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:MAP:LL	CH1~CH16	音像波形の LL 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	音像波形の LL 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:S_IMAGE:MAP:RR	CH1~CH16	音像波形の RR 軸に割り当てるチャンネルを設定
	?	音像波形の RR 軸に割り当てるチャンネルを問い合わせ
AUDIO:STATUS:DISPLAY	DEFAULT	ステータス画面を表示
	CH_STATUS	チャンネルステータス画面を表示
	USER_BIT	ユーザービット画面を表示
	?	ステータス画面の表示形式を問い合わせ
AUDIO:DOLBY:E_META_PRM	PRM1~PRM8	Dolby E 信号のメタデータを表示するプログラム番号を設定
	?	Dolby E 信号のメタデータを表示するプログラム番号を問い合わせ
AUDIO:DOLBY:EBI_META_PRM	PRM1~PRM8	Dolby E 信号の EBI メタデータを表示するプログラム番号を設定
	?	Dolby E 信号の EBI メタデータを表示するプログラム番号を問い合わせ
AUDIO:STATUS:CH_STATUS	CH1~CH16	チャンネルステータス画面のチャンネルを設定
	?	チャンネルステータス画面のチャンネルを問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO:STATUS:STATUS_ALIGN	LSB1ST	チャンネルステータスビットを LSB から表示
	MSB1ST	チャンネルステータスビットを MSB から表示
	?	チャンネルステータスビットの表示順を問い合わせ
AUDIO:STATUS:USER_BIT	CH1~CH16	ユーザービット画面のチャンネルを設定
	?	ユーザービット画面のチャンネルを問い合わせ
AUDIO:STATUS:USER_ALIGN	LSB1ST	ユーザービットを LSB から表示
	MSB1ST	ユーザービットを MSB から表示
	?	ユーザービットの表示順を問い合わせ
AUDIO:STATUS:ERROR_RESET	-	ステータス画面のエラーを 0 にリセット
AUDIO:LOUD:PERIOD	2MIN	測定時間を 2 分に設定
	10MIN	測定時間を 10 分に設定
	30MIN	測定時間を 30 分に設定
	1HOUR	測定時間を 1 時間に設定
	2HOUR	測定時間を 2 時間に設定
	?	測定時間を問い合わせ
AUDIO:LOUD:CHART_CLEAR	-	チャートをクリアする
AUDIO:LOUD:MEASURE	STOP	ラウドネス測定を停止する
	START	ラウドネス測定を開始する
	?	ラウドネス測定の状態を問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAG	OFF	スケール MAG を無効にする
	ON	スケール MAG を有効にする
	?	スケール MAG の状態を問い合わせ
AUDIO:LOUD:INTEG:MODE	BS1770_2	測定モードを BS1770-2 に設定
	ARIB	測定モードを ARIB に設定
	EBU	測定モードを EBU に設定
	ATSC	測定モードを ATSC に設定
	?	測定モードを問い合わせ
AUDIO:LOUD:INTEG:LFE_GAIN	OFF	LFE を無効にする
	ON	LFE を有効にする
	?	LFE の状態を問い合わせ
AUDIO:LOUD:INTEG:LFE_GAIN:VALUE	0~10	LFE の倍率を設定する
	?	LFE の倍率を問い合わせ
AUDIO:LOUD:SHORT:AVRG_TIME	200~10000	ショートタームラウドネスの測定時間を設定 (100 ステップ)
	?	ショートタームラウドネスの測定時間を問い合わせ
AUDIO:LOUD:MOMENT:AVRG_TIME	200~10000	モーメンタリラウドネスの測定時間を設定 (100 ステップ)
	?	モーメンタリラウドネスの測定時間を問い合わせ
AUDIO:LOUD:RESPONSE	SHORTTERM	応答モデルをショートタームに設定
	MOMENTARY	応答モデルをモーメンタリに設定
	?	応答モデルを問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO:LOUD:AUTO:TRIGGER	OFF	手動でラウドネス測定する
	REMOTE	リモート端子でラウドネス測定する
	TIMECODE	タイムコードでラウドネス測定する
	MUTE	入力信号でラウドネス測定する
	?	ラウドネスの測定方法を問い合わせ
AUDIO:LOUD:AUTO_START:H	0~23	タイムコードの開始時を設定
	?	タイムコードの開始時を問い合わせ
AUDIO:LOUD:AUTO_START:M	0~59	タイムコードの開始分を設定
	?	タイムコードの開始分を問い合わせ
AUDIO:LOUD:AUTO_START:S	0~59	タイムコードの開始秒を設定
	?	タイムコードの開始秒を問い合わせ
AUDIO:LOUD:AUTO_END:H	0~23	タイムコードの終了時を設定
	?	タイムコードの終了時を問い合わせ
AUDIO:LOUD:AUTO_END:M	0~59	タイムコードの終了分を設定
	?	タイムコードの終了分を問い合わせ
AUDIO:LOUD:AUTO_END:S	0~59	タイムコードの終了秒を設定
	?	タイムコードの終了秒を問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAP:MODE:MAIN	MONO	メインラウドネスの測定チャンネルを MONO に設定
	STEREO	メインラウドネスの測定チャンネルをステレオに設定
	5_1	メインラウドネスの測定チャンネルを 5.1 に設定
	CUSTOM	メインラウドネスの測定チャンネルをカスタムに設定
	?	メインラウドネスの測定チャンネルを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAP:MODE:SUB	OFF	サブラウドネスを測定しない
	MONO	サブラウドネスの測定チャンネルを MONO に設定
	STEREO	サブラウドネスの測定チャンネルをステレオに設定
	?	サブラウドネスの測定チャンネルを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAP:L	CH1~CH16	Lch に割り当てるチャンネルを選択
	NON	Lch にチャンネルを割り当てない
	?	Lch に割り当てるチャンネルをを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAP:R	CH1~CH16	Rch に割り当てるチャンネルを選択
	NON	Rch にチャンネルを割り当てない
	?	Rch に割り当てるチャンネルをを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAP:C	CH1~CH16	Cch に割り当てるチャンネルを選択
	NON	Cch にチャンネルを割り当てない
	?	Cch に割り当てるチャンネルをを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAP:LFE	CH1~CH16	LFEch に割り当てるチャンネルを選択
	NON	LFEch にチャンネルを割り当てない
	?	LFEch に割り当てるチャンネルをを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAP:LS	CH1~CH16	Lsch に割り当てるチャンネルを選択
	NON	Lsch にチャンネルを割り当てない
	?	Lsch に割り当てるチャンネルをを問い合わせ

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO:LOUD:MAP:RS	CH1~CH16	Rsch に割り当てるチャンネルを選択
	NON	Rsch にチャンネルを割り当てない
	?	Rsch に割り当てるチャンネルをを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAP:RL	CH1~CH16	サブの Lch に割り当てるチャンネルを選択
	?	サブの Lch に割り当てるチャンネルをを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MAP:RR	CH1~CH16	サブの Rch に割り当てるチャンネルを選択
	?	サブの Rch に割り当てるチャンネルをを問い合わせ
AUDIO:LOUD:SHORTTERM:DATA:MAIN	-	メインのショートタームラウドネスを問い合わせ
AUDIO:LOUD:INTEGRATED:DATA:MAIN	-	メインのロングタームラウドネスを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MOMENTARY:DATA:MAIN	-	メインのモーメンタリラウドネスを問い合わせ
AUDIO:LOUD:SHORTTERM:DATA:SUB	-	サブのショートタームラウドネスを問い合わせ
AUDIO:LOUD:INTEGRATED:DATA:SUB	-	サブのロングタームラウドネスを問い合わせ
AUDIO:LOUD:MOMENTARY:DATA:SUB	-	サブのモーメンタリラウドネスを問い合わせ
AUDIO:LOUD:PEAKHOLD:DATA:L	-	Lch のピークレベルを問い合わせ
AUDIO:LOUD:PEAKHOLD:DATA:R	-	Rch のピークレベルを問い合わせ
AUDIO:LOUD:PEAKHOLD:DATA:C	-	Cch のピークレベルを問い合わせ
AUDIO:LOUD:PEAKHOLD:DATA:LFE	-	LFEch のピークレベルを問い合わせ
AUDIO:LOUD:PEAKHOLD:DATA:LS	-	Lsch のピークレベルを問い合わせ
AUDIO:LOUD:PEAKHOLD:DATA:RS	-	Rsch のピークレベルを問い合わせ
AUDIO:LOUD:PEAKHOLD:DATA:SL	-	サブの Lch のピークレベルを問い合わせ
AUDIO:LOUD:PEAKHOLD:DATA:SR	-	サブの Rch のピークレベルを問い合わせ
AUDIO:PHONES:L_R_CH	1_2	ヘッドホン出力の Lch に 1ch、Rch に 2ch を割り当て
	3_4	ヘッドホン出力の Lch に 3ch、Rch に 4ch を割り当て
	5_6	ヘッドホン出力の Lch に 5ch、Rch に 6ch を割り当て
	7_8	ヘッドホン出力の Lch に 7ch、Rch に 8ch を割り当て
	9_10	ヘッドホン出力の Lch に 9ch、Rch に 10ch を割り当て
	11_12	ヘッドホン出力の Lch に 11ch、Rch に 12ch を割り当て
	13_14	ヘッドホン出力の Lch に 13ch、Rch に 14ch を割り当て
	15_16	ヘッドホン出力の Lch に 15ch、Rch に 16ch を割り当て
	LT_RT	ヘッドホン出力の Lch に LT、Rch に RT を割り当て
	AUX1_AUX2	ヘッドホン出力の Lch に AUX1、Rch に AUX2 を割り当て
	L_R	ヘッドホン出力の Lch に L、Rch に R を割り当て
?	ヘッドホン出力の Lch、Rch に割り当てるチャンネルを問い合わせ	
AUDIO:DOLBY:AUX_CH	LTRT	AUX CH の機能を LtRt に設定
	LORO	AUX CH の機能を LoRo に設定
	MONO	AUX CH の機能を MONO に設定
	MUTE	AUX CH の機能を MUTE に設定
	?	AUX CH の機能を問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO:DOLBY:AUX_CH_DRC	LINE	AUX CH のダイナミックレンジコントロールを LINE に設定
	RF	AUX CH のダイナミックレンジコントロールを RF に設定
	?	AUX CH のダイナミックレンジコントロールを問い合わせ
AUDIO:DOLBY	AC3	動作モードをドルビーデジタル (AC-3) に設定する
	E	動作モードをドルビー E に設定する
	OFF	動作モードを PCM に設定する
	?	動作モードの問い合わせ
AUDIO:DOLBY:GROUP	1_2	デコードチャンネルを ch1/2 に設定する
	3_4	デコードチャンネルを ch3/4 に設定する
	5_6	デコードチャンネルを ch5/6 に設定する
	7_8	デコードチャンネルを ch7/8 に設定する
	9_10	デコードチャンネルを ch9/10 に設定する
	11_12	デコードチャンネルを ch11/12 に設定する
	13_14	デコードチャンネルを ch13/14 に設定する
	15_16	デコードチャンネルを ch15/16 に設定する
?	デコードチャンネルの問い合わせ	
AUDIO:DOLBY:E_DIALNORM	ON	Dolby E 信号のダイアログノーマライゼーションをオンに設定
	OFF	Dolby E 信号のダイアログノーマライゼーションをオフに設定
	?	Dolby E 信号のダイアログノーマライゼーションのオンオフを問い合わせ
AUDIO:DOLBY:E_PULLDOWN	ON	Dolby E 信号のプルダウンをオンに設定
	OFF	Dolby E 信号のプルダウンをオフに設定
	?	Dolby E 信号のプルダウンのオンオフを問い合わせ
AUDIO:DOLBY:D_LISTENING	FULL	Dolby Digital 信号のリスニングモードを FULL に設定
	EX	Dolby Digital 信号のリスニングモードを EX に設定
	3STEREO	Dolby Digital 信号のリスニングモードを 3stereo に設定
	PHANTOM	Dolby Digital 信号のリスニングモードを PHANTOM に設定
	STEREO	Dolby Digital 信号のリスニングモードを STEREO に設定
	MONO	Dolby Digital 信号のリスニングモードを MONO に設定
	?	Dolby Digital 信号のリスニングモードを問い合わせ
AUDIO:DOLBY:D_PROLOGIC	ON	Dolby Digital 信号のプロロジックをオンに設定
	OFF	Dolby Digital 信号のプロロジックをオフに設定
	?	Dolby Digital 信号のプロロジックのオンオフを問い合わせ

2. TELNET

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)

コマンド	パラメータ 1	説明
AUDIO:DOLBY:D_DRC	BYPASS	Dolby Digital 信号のダイナミックレンジコントロールを BYPASS に設定
	LINE	Dolby Digital 信号のダイナミックレンジコントロールを LINE に設定
	RF	Dolby Digital 信号のダイナミックレンジコントロールを RF に設定
	?	Dolby Digital 信号のダイナミックレンジコントロールを問い合わせ
AUDIO:INPUT_SELECT	DIGITAL	デジタルオーディオ信号を測定
	ANALOG	アナログオーディオ信号を測定
	?	測定オーディオ信号の種類を問い合わせ

3. FTP

背面パネルのイーサネット端子を介して、本器からネットワークに接続された PC へ、データダンプ等のファイルを転送することができます。

3.1 操作手順

FTP の操作手順を以下に示します。

1. 本体でイーサネットの設定をして、ケーブルを接続します。

「2.1 操作手順」の「手順 1」～「手順 3」を参照してください。

2. FTP を起動します。(※1)

FTP を起動すると、以下のように表示されます。

```
User (xxx. xxx. xxx. xxx: (none)):
```

3. ログイン名を入力して Enter キーを押します。

ログイン名は「LV7800」です。必ず大文字で入力してください。
なお、ログイン名を変更することはできません。

```
User (xxx. xxx. xxx. xxx: (none)): LV7800
```

4. パスワードを入力して Enter キーを押します。

パスワードは「LV7800」です。必ず大文字で入力してください。
なお、パスワードを変更することはできません。

```
Password: LV7800 (実際には表示されません)
```

5. コマンドを入力します。

パスワードを入力すると、以下のようにコマンド入力画面が表示されます。

「3.2 コマンドの入力方法」「3.3 コマンド」を参照して、コマンドを入力してください。

```
ftp>
```

※1 Windows 7 での FTP の起動例：

スタートメニューから「ファイル名を指定して実行」を選択します。

「FTP」+「スペース」+「本器の IP アドレス」を入力し、OK を押します。

3.2 コマンドの入力方法

FTP でファイルを転送するには、FTP コマンドを実行する前に、TELNET で MAKE コマンドを実行する必要があります。

FTP コマンドの書式は以下のとおりです。コマンドは大文字、小文字のどちらでも使用できます。

```
ftp> [コマンド] + [半角スペース] + [パラメータ 1] + [半角スペース] + [パラメータ 2]
```

● コマンドの入力例（データダンプの転送）

1. TELNET コマンドでデータダンプを本体内部に取り込みます。

```
LV7800> MAKE DUMP
```

2. FTP コマンドで、データダンプを「DUMP.TXT」の名前で PC の D ドライブに転送します。

```
ftp> GET DUMP.TXT D:¥DUMP.TXT
```

3.3 コマンド

TELNET の MAKE コマンドと、FTP コマンドを以下に示します。

各コマンド動作についての詳細は、本体またはユニットの取扱説明書を参照してください。

● TELNET コマンド

コマンド	パラメータ 1	説明
MAKE	CAPTURE	キャプチャデータを本体内部に取り込み
	LOG	イベントログを本体内部に取り込み (※1)
	DUMP	データダンプを本体内部に取り込み (※1)

● FTP コマンド

コマンド	パラメータ 1	パラメータ 2	説明
GET	CAPTURE. BMP	パス¥ファイル名. BMP (例 : D:¥CAPTURE. BMP)	スクリーンキャプチャデータをビットマップファイルで転送
	CAPTURE. FRM	パス¥ファイル名. FRM (例 : D:¥CAPTURE. FRM)	フレームキャプチャデータをフレームファイルで転送 (※1)
	CAPTURE. DPX	パス¥ファイル名. DPX (例 : D:¥CAPTURE. DPX)	フレームキャプチャデータを DPX ファイルで転送 (※1)
	CAPTURE. TIF	パス¥ファイル名. TIF (例 : D:¥CAPTURE. TIF)	フレームキャプチャデータを TIF ファイルで転送 (※1)
	LOG. TXT	パス¥ファイル名. TXT (例 : D:¥LOG. TXT)	イベントログをテキストファイルで転送 (※1)
	DUMP. TXT	パス¥ファイル名. TXT (例 : D:¥DUMP. TXT)	データダンプをテキストファイルで転送 (※1)

※1 LV 58SER01A(SDI INPUT)を選択している必要があります。

4. SNMP

SNMP (Simple Network Management Protocol) を使用して、SNMP マネージャから本器のコントロールをすることができます。また、本器で発生した SDI 信号のエラーを SNMP マネージャに通知することもできます。

4.1 操作手順

SNMP の操作手順を以下に示します。

1. 本体でイーサネットの設定をして、ケーブルを接続します。
「2.1 操作手順」の「手順 1」～「手順 3」を参照してください。
2. SNMP マネージャを起動します。(※1)
SNMP によるコントロールには、SNMP マネージャが必要です。お客様自身でご用意ください。(本器に SNMP マネージャは付属していません)
3. SNMP マネージャから GET、SET 操作を行える事を確認します。
SNMP マネージャの使用方法については、お使いの SNMP マネージャの取扱説明書をご覧ください。
4. 下記 MIB 項目へ SNMP マネージャの IP アドレスを設定します。(※2)

SNMP マネージャから SET 操作を行います。リンク先は 4 カ所まで設定できます。

- ・ TRAP 送信先 1 の IP アドレス

```
1.3.6.1.4.1.leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).l12trapTBL(9).l12trapIpTBL(2).l12trapIp1TBL(1).l12trapManagerIp1(1).0
```

- ・ TRAP 送信先 2 の IP アドレス

```
1.3.6.1.4.1.leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).l12trapTBL(9).l12trapIpTBL(2).l12trapIp2TBL(2).l12trapManagerIp2(1).0
```

- ・ TRAP 送信先 3 の IP アドレス

```
1.3.6.1.4.1.leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).l12trapTBL(9).l12trapIpTBL(2).l12trapIp3TBL(3).l12trapManagerIp3(1).0
```

- ・ TRAP 送信先 4 の IP アドレス

```
1.3.6.1.4.1.leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).l12trapTBL(9).l12trapIpTBL(2).l12trapIp4TBL(4).l12trapManagerIp4(1).0
```

4. SNMP

5. 有効にしたい送信先に下記 MIB 項目を設定します。(※2)

通信負荷の原因となりますので、使用しない送信先は必ず「無効(DISABLE)」にしてください。初期設定はすべて「無効(DISABLE)」です。

・ TRAP 送信先 1 の有効(ENABLE:1)/無効(DISABLE:2)

```
1.3.6.1.4.1.leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).l12trapTBL(9).  
l12trapIpTBL(2).l12trapIp1TBL(1).l12trapManagerIp1Act(2).0
```

・ TRAP 送信先 2 の有効(ENABLE:1)/無効(DISABLE:2)

```
1.3.6.1.4.1.leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).l12trapTBL(9).  
l12trapIpTBL(2).l12trapIp2TBL(2).l12trapManagerIp2Act(2).0
```

・ TRAP 送信先 3 の有効(ENABLE:1)/無効(DISABLE:2)

```
1.3.6.1.4.1.leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).l12trapTBL(9).  
l12trapIpTBL(2).l12trapIp3TBL(3).l12trapManagerIp3Act(2).0
```

・ TRAP 送信先 4 の有効(ENABLE:1)/無効(DISABLE:2)

```
1.3.6.1.4.1.leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).l12trapTBL(9).  
l12trapIpTBL(2).l12trapIp4TBL(4).l12trapManagerIp4Act(2).0
```

6. 本体を再起動します。

7. 本体起動時に SNMP マネージャで、標準 TRAP「coldStart(0)」の受信を確認します。

※1 SNMP バージョン

SNMPv1

コミュニティ名

Read community: LDRUser

Write community: LDRAdm

TRAP community: LDRUser

SMI 定義

IMPORTS

MODULE-IDENTITY, OBJECT-TYPE, NOTIFICATION-TYPE, enterprises
FROM SNMPv2-SMI

DisplayString

FROM SNMPv2-TC

OBJECT-GROUP, MODULE-COMPLIANCE

FROM SNMPv2-CONF;

※2 「1」は数字の1、「l」はアルファベットのエル(小文字)、「I」はアルファベットのアイ(大文字)を表しています。

4.2 MIB

本器で使用する MIB (Management Information Base) について説明します。
表中「ACCESS」の意味は以下の通りです。

ACCESS	説明
R/O	SNMP マネージャからデータの取得のみが可能な情報
R/W	SNMP マネージャからデータの取得と設定が可能な情報
R/WO	SNMP マネージャからデータの取得と設定が可能な情報 (ただし、取得データは意味のない固定値)

4.2.1 標準MIB

本器は以下の標準 MIB を使用します。

- ・ RFC1213 (MIB-II)
- ・ RFC1354 (IP Forwarding Table MIB)

本バージョンでは、実装されていないオブジェクトがありますので注意してください。
表中「SUPPORT」の意味は以下の通りです。

SUPPORT	説明
○	本来の定義をサポート
△	本来は読み書き可能だが、本器では読み込みのみをサポート
×	サポートしていない

4. SNMP

● system グループ

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	SUPPORT
sysDescr	system.1	DisplayString	R/0	○
sysObjectID	system.2	ObjectID	R/0	○
sysUpTime	system.3	TimeTicks	R/0	○
sysContact (※1)	system.4	DisplayString	R/W	○
sysName (※1)	system.5	DisplayString	R/W	○
sysLocation (※1)	system.6	DisplayString	R/W	○
sysServices	system.7	INTEGER	R/0	○

※1 40 バイト以下に設定してください

● interface グループ

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	SUPPORT
ifNumber	interfaces.1	INTEGER	R/0	○
ifTable	interfaces.2	Aggregate	-	○
ifEntry	ifTable.1	Aggregate	-	○
ifIndex	ifEntry.1	INTEGER	R/0	○
ifDescr	ifEntry.2	DisplayString	R/0	○
ifType	ifEntry.3	INTEGER	R/0	○
ifMtu	ifEntry.4	INTEGER	R/0	○
ifSpeed	ifEntry.5	Gauge	R/0	○
ifPhysAddress	ifEntry.6	OctetString	R/0	○
ifAdminStatus	ifEntry.7	INTEGER	R/0	△
ifOperStatus	ifEntry.8	INTEGER	R/0	△
ifLastChange	ifEntry.9	TimeTicks	R/0	○
ifInOctets	ifEntry.10	Counter	R/0	○
ifInUcastPkts	ifEntry.11	Counter	R/0	○
ifInNUcastPkts	ifEntry.12	Counter	R/0	○
ifInDiscards	ifEntry.13	Counter	R/0	○
ifInErrors	ifEntry.14	Counter	R/0	○
ifInUnknownProtos	ifEntry.15	Counter	R/0	○
ifOutOctets	ifEntry.16	Counter	R/0	○
ifOutUcastPkts	ifEntry.17	Counter	R/0	○
ifOutNUcastPkts	ifEntry.18	Counter	R/0	○
ifOutDiscards	ifEntry.19	Counter	R/0	○
ifOutErrors	ifEntry.20	Counter	R/0	○
ifOutQLen	ifEntry.21	Gauge	R/0	○
ifSpecific	ifEntry.22	ObjectID	R/0	○

4. SNMP

● ip グループ

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	SUPPORT
ipForwarding	ip.1	INTEGER	R/0	○
ipDefaultTTL	ip.2	INTEGER	R/0	○
ipInReceives	ip.3	Counter	R/0	○
ipInHdrErrors	ip.4	Counter	R/0	○
ipInAddrErrors	ip.5	Counter	R/0	○
ipForwDatagrams	ip.6	Counter	R/0	○
ipInUnknownProtos	ip.7	Counter	R/0	○
ipInDiscards	ip.8	Counter	R/0	○
ipInDelivers	ip.9	Counter	R/0	○
ipOutRequests	ip.10	Counter	R/0	○
ipOutDiscards	ip.11	Counter	R/0	○
ipOutNoRoutes	ip.12	Counter	R/0	○
ipReasmTimeout	ip.13	INTEGER	R/0	○
ipReasmReqds	ip.14	Counter	R/0	○
ipReasmOKs	ip.15	Counter	R/0	○
ipReasmFails	ip.16	Counter	R/0	○
ipFragOKs	ip.17	Counter	R/0	○
ipFragFails	ip.18	Counter	R/0	○
ipFragCreates	ip.19	Counter	R/0	○
ipAddrTable	ip.20	Aggregate	-	○
ipAddrEntry	ipAddrTable.1	Aggregate	-	○
ipAdEntAddr	ipAddrEntry.1	IpAddress	R/0	○
ipAdEntIfIndex	ipAddrEntry.2	INTEGER	R/0	○
ipAdEntNetMask	ipAddrEntry.3	IpAddress	R/0	○
ipAdEntBcastAddr	ipAddrEntry.4	INTEGER	R/0	○
ipAdEntReasmMaxSize	ipAddrEntry.5	INTEGER	R/0	○
ipNetToMediaTable	ip.22	Aggregate	-	○
ipNetToMediaEntry	ipNetToMediaTable.1	Aggregate	-	○
ipNetToMediaIfIndex	ipNetToMediaEntry.1	INTEGER	R/0	△
ipNetToMediaPhysAddress	ipNetToMediaEntry.2	OctetString	R/0	△
ipNetToMediaNetAddress	ipNetToMediaEntry.3	IpAddress	R/0	△
ipNetToMediaType	ipNetToMediaEntry.4	INTEGER	R/0	△
ipRoutingDiscards	ip.23	Counter	R/0	○
ipForward	ip.24	Aggregate	-	○
ipForwardNumber	ipForward.1	Gauge	R/0	○
ipForwardTable	ipForward.2	Aggregate	-	○
ipForwardDest	ipForwardTable.1	IpAddress	R/0	○
ipForwardMask	ipForwardTable.1	IpAddress	R/0	○
ipForwardPolicy	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×
ipForwardNextHop	ipForwardTable.1	IpAddress	R/0	○
ipForwardIfIndex	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	○
ipForwardType	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×
ipForwardProto	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×
ipForwardAge	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	SUPPORT
ipForwardInfo	ipForwardTable.1	ObjectID	R/0	×
ipForwardNextHopAS	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×
ipForwardMetric1	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×
ipForwardMetric2	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×
ipForwardMetric3	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×
ipForwardMetric4	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×
ipForwardMetric5	ipForwardTable.1	INTEGER	R/0	×

● icmp グループ

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	SUPPORT
icmpInMsgs	icmp.1	Counter	R/0	○
icmpInErrors	icmp.2	Counter	R/0	○
icmpInDestUnreachs	icmp.3	Counter	R/0	○
icmpInTimeExcds	icmp.4	Counter	R/0	○
icmpInParmProbs	icmp.5	Counter	R/0	○
icmpInSrcQuenchs	icmp.6	Counter	R/0	○
icmpInRedirects	icmp.7	Counter	R/0	○
icmpInEchos	icmp.8	Counter	R/0	○
icmpInEchoReps	icmp.9	Counter	R/0	○
icmpInTimestamps	icmp.10	Counter	R/0	○
icmpInTimestampReps	icmp.11	Counter	R/0	○
icmpInAddrMasks	icmp.12	Counter	R/0	○
icmpInAddrMaskReps	icmp.13	Counter	R/0	○
icmpOutMsgs	icmp.14	Counter	R/0	○
icmpOutErrors	icmp.15	Counter	R/0	○
icmpOutDestUnreachs	icmp.16	Counter	R/0	○
icmpOutTimeExcds	icmp.17	Counter	R/0	○
icmpOutParmProbs	icmp.18	Counter	R/0	○
icmpOutSrcQuenchs	icmp.19	Counter	R/0	○
icmpOutRedirects	icmp.20	Counter	R/0	○
icmpOutEchos	icmp.21	Counter	R/0	○
icmpOutEchoReps	icmp.22	Counter	R/0	○
icmpOutTimestamps	icmp.23	Counter	R/0	○
icmpOutTimestampReps	icmp.24	Counter	R/0	○
icmpOutAddrMasks	icmp.25	Counter	R/0	○
icmpOutAddrMaskReps	icmp.26	Counter	R/0	○

4. SNMP

● tcp グループ

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	SUPPORT
tcpRtoAlgorithm	tcp. 1	INTEGER	R/0	○
tcpRtoMin	tcp. 2	INTEGER	R/0	○
tcpRtoMax	tcp. 3	INTEGER	R/0	○
tcpMaxConn	tcp. 4	INTEGER	R/0	○
tcpActiveOpens	tcp. 5	Counter	R/0	○
tcpPassiveOpens	tcp. 6	Counter	R/0	○
tcpAttemptFails	tcp. 7	Counter	R/0	○
tcpEstabResets	tcp. 8	Counter	R/0	○
tcpCurrEstab	tcp. 9	Gauge	R/0	○
tcpInSegs	tcp. 10	Counter	R/0	○
tcpOutSegs	tcp. 11	Counter	R/0	○
tcpRetransSegs	tcp. 12	Counter	R/0	○
tcpConnTable	tcp. 13	Aggregate	-	○
tcpConnEntry	tcpConnTable. 1	Aggregate	-	○
tcpConnState	tcpConnEntry. 1	INTEGER	R/0	△
tcpConnLocalAddress	tcpConnEntry. 2	IpAddress	R/0	○
tcpConnLocalPort	tcpConnEntry. 3	INTEGER	R/0	○
tcpConnRemAddress	tcpConnEntry. 4	IpAddress	R/0	○
tcpConnRemPort	tcpConnEntry. 5	INTEGER	R/0	○
tcpInErrs	tcp. 14	Counter	R/0	○
tcpOutRsts	tcp. 15	Counter	R/0	○

● udp グループ

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	SUPPORT
udpInDatagrams	udp. 1	Counter	R/0	○
udpNoPorts	udp. 2	Counter	R/0	○
udpInErrors	udp. 3	Counter	R/0	○
udpOutDatagrams	udp. 4	Counter	R/0	○
udpTable	udp. 5	Aggregate	-	○
udpEntry	udpTable. 1	Aggregate	-	○
udpLocalAddress	udpEntry. 1	IpAddress	R/0	○
udpLocalPort	udpEntry. 2	INTEGER	R/0	○

4. SNMP

● snmp グループ

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	SUPPORT
snmpInPkts	snmp. 1	Counter	R/0	○
snmpOutPkts	snmp. 2	Counter	R/0	○
snmpInBadVersions	snmp. 3	Counter	R/0	○
snmpInBadCommunityNames	snmp. 4	Counter	R/0	○
snmpInBadCommunityUses	snmp. 5	Counter	R/0	○
snmpInASNParseErrs	snmp. 6	Counter	R/0	○
snmpInTooBigs	snmp. 8	Counter	R/0	○
snmpInNoSuchNames	snmp. 9	Counter	R/0	○
snmpInBadValues	snmp. 10	Counter	R/0	○
snmpInReadOnlyS	snmp. 11	Counter	R/0	○
snmpInGenErrs	snmp. 12	Counter	R/0	○
snmpInTotalReqVars	snmp. 13	Counter	R/0	○
snmpInTotalSetVars	snmp. 14	Counter	R/0	○
snmpInGetRequests	snmp. 15	Counter	R/0	○
snmpInGetNexts	snmp. 16	Counter	R/0	○
snmpInSetRequests	snmp. 17	Counter	R/0	○
snmpInGetResponses	snmp. 18	Counter	R/0	○
snmpInTraps	snmp. 19	Counter	R/0	○
snmpOutTooBigs	snmp. 20	Counter	R/0	○
snmpOutNoSuchNames	snmp. 21	Counter	R/0	○
snmpOutBadValues	snmp. 22	Counter	R/0	○
snmpOutGenErrs	snmp. 24	Counter	R/0	○
snmpOutGetRequests	snmp. 25	Counter	R/0	○
snmpOutGetNexts	snmp. 26	Counter	R/0	○
snmpOutSetRequests	snmp. 27	Counter	R/0	○
snmpOutGetResponses	snmp. 28	Counter	R/0	○
snmpOutTraps	snmp. 29	Counter	R/0	○
snmpEnableAuthenTraps	snmp. 30	IpAddress	R/W	○

4.2.2 拡張MIB

● 企業番号

リーダー電子の企業番号(Enterprise Number)は「20111」です。
 iso(1).org(3).dod(6).internet(1).private(4).enterprises(1).leader(20111)

● 拡張 MIB ファイルの取得

FTPを使用して、本体からダウンロードしてください。
 ファイル名は「lv7800.my」です。

● 拡張 MIB 構造

拡張 MIB 構造を以下に示します。各オプションが実装されていない製品で、オプション用の MIB は制御できません。

```

leader    OBJECT IDENTIFIER ::= { enterprises 20111 }
lv7800    OBJECT IDENTIFIER ::= { leader 12 }
lv7800ST1 OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800 1 }
basic     OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 1 }    <← 基本操作
system    OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 2 }    <← SYSTEM メニュー
wfm       OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 3 }    <← WFM メニュー
vector    OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 4 }    <← VECTOR メニュー
picture   OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 5 }    <← PICTURE メニュー
audio     OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 6 }    <← AUDIO メニュー
status    OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 7 }    <← STATUS メニュー
eye       OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 8 }    <← EYE メニュー
trap      OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 9 }    <← Trap 情報

```

● 拡張 MIB 一覧表

拡張 MIB のツリー構造を以下に示します。下表中プリフィックスの「112」は「L12」の小文字です。

```

leader OBJECT IDENTIFIER ::= { enterprises 20111 }
lv7800 OBJECT IDENTIFIER ::= { leader 12 }
lv7800ST1 OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800 1 }
112basicTBL OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 1 }
112systemTBL OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 2 }
112wfmTBL OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 3 }
112vectorTBL OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 4 }
112pictureTBL OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 5 }
112audioTBL OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 6 }
112statusTBL OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 7 }
112eyeTBL OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 8 }
112trapTBL OBJECT IDENTIFIER ::= { lv7800ST1 9 }

```

4. SNMP

● l12basicTBL(1)グループ

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12basDisplay	l12basicTBL.1	INTEGER	R/W	1 = display1 2 = display2 3 = display3 4 = display4
l12basMulti	l12basicTBL.2	INTEGER	R/W	1 = on 2 = off
l12basInputTBL	l12basicTBL.3	Aggregate	-	-
l12basInputUnit	l12basInputTBL.1	INTEGER	R/W	1 = unit1 2 = unit2 3 = unit3 4 = unit4
l12basInputCh	l12basInputTBL.2	INTEGER	R/W	1 = A 2 = B
l12basMode	l12basicTBL.4	INTEGER	R/W	1 = WFM 2 = Vector 3 = Picture 4 = Audio 5 = Status 6 = Eye
l12basExt	l12basicTBL.5	INTEGER	R/W	1 = INT 2 = EXT
l12basRecall	l12basicTBL.6	INTEGER	R/WO	1 ~ 60
l12basFileTBL	l12basicTBL.7	Aggregate	-	-
l12basFileMakeLog	l12basFileTBL.1	INTEGER	R/WO	1 = Make Log
l12basFileMakeDump	l12basFileTBL.2	INTEGER	R/WO	1 = Make Dump
l12basFileMakeCapture	l12basFileTBL.3	INTEGER	R/WO	1 = Make Capture
l12basKeylock	l12basicTBL.8	INTEGER	R/W	1 = on 2 = off

4. SNMP

● l12systemTBL (2) グループ

LV 7800 (MULTI RASTERIZER)

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12sysUnitTBL	l12systemTBL.1	Aggregate	-	-
l12sysUnitSetup (※1)	l12sysUnitTBL.1	INTEGER	R/W	1 = unit1 2 = unit2 3 = unit3 4 = unit4
l12sysUnit1Info	l12sysUnitTBL.2	INTEGER	R/O	1 = none 2 = SDI 3 = Audio 4 = Eye 5 = Analog 6 = DVI-I 7 = MPEG
l12sysUnit2Info	l12sysUnitTBL.3	INTEGER	R/O	1 = none 2 = SDI 3 = Audio 4 = Eye 5 = Analog 6 = DVI-I 7 = MPEG
l12sysUnit3Info	l12sysUnitTBL.4	INTEGER	R/O	1 = none 2 = SDI 3 = Audio 4 = Eye 5 = Analog 6 = DVI-I 7 = MPEG
l12sysUnit4Info	l12sysUnitTBL.5	INTEGER	R/O	1 = none 2 = SDI 3 = Audio 4 = Eye 5 = Analog 6 = DVI-I 7 = MPEG
l12sysUnitManualSelect	l12sysUnitTBL.6	INTEGER	R/W	1 = Auto 2 = Manual
l12sysUnitManualFormat	l12sysUnitTBL.7	INTEGER	R/W	1 = 1080i/60 2 = 1080PsF/30 3 = 1080i/59.94 4 = 1080PsF/29.97 5 = 1080i/50 6 = 1080PsF/25 7 = 1080PsF/24 8 = 1080PsF/23.98 9 = 1080p/30 10 = 1080p/29.97

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				11 = 1080p/25 12 = 1080p/24 13 = 1080p/23.98 14 = 720p/60 15 = 720p/59.94 16 = 720p/50 17 = 720p/30 18 = 720p/29.97 19 = 720p/25 20 = 720p/24 21 = 720p/23.98 22 = 525i/59.94 23 = 625i/50
l12sysDate	l12systemTBL.5	OctetString	R/W	YYYY/MM/DD hh:mm:ss
l12sysPlatformTBL	l12systemTBL.6	Aggregate	-	-
l12sysPlatformDisplayMultiMode	l12sysPlatformTBL.1	INTEGER	R/W	1 = 2MULTI 2 = 4MULTI
l12sysPlatformCaptureMode	l12sysPlatformTBL.2	INTEGER	R/W	1 = SCREEN 2 = VIDEO-FRAME
l12sysPlatformDisplayInfoFormat	l12sysPlatformTBL.3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysPlatformDisplayInfoDate	l12sysPlatformTBL.4	INTEGER	R/W	1 = OFF 2 = YMD 3 = MDY 4 = DMY
l12sysPlatformDisplayInfoTime	l12sysPlatformTBL.5	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysPlatformDisplayInfoColor	l12sysPlatformTBL.6	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysPlatformDisplayInfoInput	l12sysPlatformTBL.7	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysPlatformRemoteMode	l12sysPlatformTBL.8	INTEGER	R/W	1 = BIT 2 = BINARY
l12sysPlatformAlarmPolarity	l12sysPlatformTBL.9	INTEGER	R/W	1 = POSITIVE 2 = NEGATIVE
l12sysPlatformAlarm1Unit	l12sysPlatformTBL.10	INTEGER	R/W	1 = UNIT1 2 = UNIT2 3 = UNIT3 4 = UNIT4 5 = ALL
l12sysPlatformAlarm2Unit	l12sysPlatformTBL.11	INTEGER	R/W	1 = UNIT1 2 = UNIT2 3 = UNIT3 4 = UNIT4 5 = ALL
l12sysPlatformAlarm3Unit	l12sysPlatformTBL.12	INTEGER	R/W	1 = UNIT1

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				2 = UNIT2 3 = UNIT3 4 = UNIT4 5 = ALL
l12sysPlatformAlarm4Unit	l12sysPlatformTBL. 13	INTEGER	R/W	1 = UNIT1 2 = UNIT2 3 = UNIT3 4 = UNIT4 5 = ALL
l12sysPlatformAlarm1Ch	l12sysPlatformTBL. 14	INTEGER	R/W	1 = A 2 = B 3 = A/B
l12sysPlatformAlarm2Ch	l12sysPlatformTBL. 15	INTEGER	R/W	1 = A 2 = B 3 = A/B
l12sysPlatformAlarm3Ch	l12sysPlatformTBL. 16	INTEGER	R/W	1 = A 2 = B 3 = A/B
l12sysPlatformAlarm4Ch	l12sysPlatformTBL. 17	INTEGER	R/W	1 = A 2 = B 3 = A/B
l12sysPlatformErrorBeep	l12sysPlatformTBL. 18	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysAspect	l12systemTBL. 7	INTEGER	R/W	1 = 4:3 2 = 16:9
l12sysInit	l12systemTBL. 8	INTEGER	R/WO	1 = Initialize
l12sysWindowMarker	l12systemTBL. 9	INTEGER	R/W	1 = OFF 2 = BLUE 3 = WHITE
l12sysSourceMode	l12systemTBL. 10	INTEGER	R/W	1 = SINGLE 2 = MULTI 3 = MULTI-LINE

※1 電源投入時に必ず unit1 に初期化されます。各ボードに値を設定する場合は、最初にここでユニット番号を選択してください。一度選択すると、次に値を変更するか電源を切るまで値が保持されます。

4. SNMP

● I12systemTBL (2) グループ

LV 58SER01A (SDI INPUT)

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
I12sysUnitSdiTBL	I12systemTBL.2	Aggregate	-	-
I12sysUnitSdiLinkFormat	I12sysUnitSdiTBL.1	INTEGER	R/W	1 = SINGLE 2 = DUAL 3 = 2K
I12sysUnitSdiIPSF	I12sysUnitSdiTBL.2	INTEGER	R/W	1 = INTERLACE 2 = SEG. FRAM
I12sysUnitSdiDualTBL	I12sysUnitSdiTBL.3	Aggregate	-	-
I12sysUnitSdiDualSystem	I12sysUnitSdiDualTBL.1	INTEGER	R/W	1 = GBR-444 2 = YCBCR-422
I12sysUnitSdiDualDepth	I12sysUnitSdiDualTBL.2	INTEGER	R/W	1 = 10B 2 = 12B
I12sysUnitSdiDualScan	I12sysUnitSdiDualTBL.3	INTEGER	R/W	1 = 1080I 2 = 1080PSF 3 = 1080P
I12sysUnitSdiInfoTimeCode	I12sysUnitSdiTBL.4	INTEGER	R/W	1 = REAL 2 = LTC 3 = VITC 4 = D-VITC
I12sysUnitSdiSelectOutput	I12sysUnitSdiTBL.5	INTEGER	R/W	1 = A 2 = A/B
I12sysUnitSdiErrTBL	I12sysUnitSdiTBL.6	Aggregate	-	-
I12sysUnitSdiErrTrs	I12sysUnitSdiErrTBL.1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitSdiErrHdLine	I12sysUnitSdiErrTBL.2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitSdiErrHdCrc	I12sysUnitSdiErrTBL.3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitSdiErrSdEdh	I12sysUnitSdiErrTBL.4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitSdiErrIllegalCode	I12sysUnitSdiErrTBL.5	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitSdiErrCableTBL	I12sysUnitSdiTBL.7	Aggregate	-	-
I12sysUnitSdiErrCable	I12sysUnitSdiErrCableTBL.1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitSdiErrHdCable	I12sysUnitSdiErrCableTBL.2	INTEGER	R/W	1 = LS-5CFB 2 = 1694A 3 = L-7CHD
I12sysUnitSdiErrHdCableLength	I12sysUnitSdiErrCableTBL.3	INTEGER	R/W	5 ~ 200
I12sysUnitSdiErrHdCableWarn	I12sysUnitSdiErrCableTBL.4	INTEGER	R/W	5 ~ 200
I12sysUnitSdiErrSdCable	I12sysUnitSdiErrCableTBL.5	INTEGER	R/W	1 = L-5C2V 2 = 8281 3 = 1505A
I12sysUnitSdiErrSdCableLength	I12sysUnitSdiErrCableTBL.6	INTEGER	R/W	50 ~ 300
I12sysUnitSdiErrSdCableWarn	I12sysUnitSdiErrCableTBL.7	INTEGER	R/W	50 ~ 300

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12sysUnitSdiErrAncTBL	l12sysUnitSdiTBL. 8	Aggregate	-	-
l12sysUnitSdiErrAncParity	l12sysUnitSdiErrAncTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrAncChecksum	l12sysUnitSdiErrAncTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrAudTBL	l12sysUnitSdiTBL. 9	Aggregate	-	-
l12sysUnitSdiErrAudioBch	l12sysUnitSdiErrAudTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrAudioDbn	l12sysUnitSdiErrAudTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrAudioParity	l12sysUnitSdiErrAudTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrAudioInhibit	l12sysUnitSdiErrAudTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrGamutTBL	l12sysUnitSdiTBL. 10	Aggregate	-	-
l12sysUnitSdiErrGamutLpf	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = HD1M-SD1M 2 = HD2. 8M-SD1M 3 = OFF
l12sysUnitSdiErrGamut	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrGamutUpper	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 3	OctetString	R/W	90. 8 ~ 109. 4
l12sysUnitSdiErrGamutLower	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 4	OctetString	R/W	-7. 2 ~ 6. 1
l12sysUnitSdiErrGamutArea	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 5	OctetString	R/W	0. 1 ~ 5. 0
l12sysUnitSdiErrGamutDuration	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 6	INTEGER	R/W	1 ~ 60
l12sysUnitSdiErrCGamut	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 7	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrCGamutSetup	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 8	INTEGER	R/W	1 = OP 2 = 7. 5P
l12sysUnitSdiErrCGamutUpper	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 9	OctetString	R/W	90. 0 ~ 135. 0
l12sysUnitSdiErrCGamutLower	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 10	OctetString	R/W	-40. 0 ~ 20. 0
l12sysUnitSdiErrCGamutArea	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 11	OctetString	R/W	0. 1 ~ 5. 0
l12sysUnitSdiErrCGamutDuration	l12sysUnitSdiErrGamutTBL. 12	INTEGER	R/W	1 ~ 60
l12sysUnitSdiErrFreezeTBL	l12sysUnitSdiTBL. 11	Aggregate	-	-
l12sysUnitSdiErrFreeze	l12sysUnitSdiErrFreezeTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrFreezeUpper	l12sysUnitSdiErrFreezeTBL. 2	INTEGER	R/W	0 ~ 100
l12sysUnitSdiErrFreezeLower	l12sysUnitSdiErrFreezeTBL. 3	INTEGER	R/W	0 ~ 100
l12sysUnitSdiErrFreezeLeft	l12sysUnitSdiErrFreezeTBL. 4	INTEGER	R/W	0 ~ 100
l12sysUnitSdiErrFreezeRight	l12sysUnitSdiErrFreezeTBL. 5	INTEGER	R/W	0 ~ 100
l12sysUnitSdiErrFreezeDuration	l12sysUnitSdiErrFreezeTBL. 6	INTEGER	R/W	2 ~ 300
l12sysUnitSdiErrBlackTBL	l12sysUnitSdiTBL. 12	Aggregate	-	-
l12sysUnitSdiErrBlack	l12sysUnitSdiErrBlackTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrBlackLevel	l12sysUnitSdiErrBlackTBL. 2	INTEGER	R/W	0 ~ 100
l12sysUnitSdiErrBlackArea	l12sysUnitSdiErrBlackTBL. 3	INTEGER	R/W	1 ~ 100

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12sysUnitSdiErrBlackDuration	l12sysUnitSdiErrBlackTBL. 4	INTEGER	R/W	1 ~ 300
l12sysUnitSdiErrLevelTBL	l12sysUnitSdiTBL. 13	Aggregate	-	-
l12sysUnitSdiErrLevel	l12sysUnitSdiErrLevelTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitSdiErrLevelRumaUpper	l12sysUnitSdiErrLevelTBL. 2	INTEGER	R/W	-51 ~ 766
l12sysUnitSdiErrLevelRumaLower	l12sysUnitSdiErrLevelTBL. 3	INTEGER	R/W	-51 ~ 766
l12sysUnitSdiErrLevelChromaUpper	l12sysUnitSdiErrLevelTBL. 4	INTEGER	R/W	-400 ~ 399
l12sysUnitSdiErrLevelChromaLower	l12sysUnitSdiErrLevelTBL. 5	INTEGER	R/W	-400 ~ 399

● l12systemTBL (2) グループ

LV 58SER40A (DIGITAL AUDIO)

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12sysUnitAudioTBL	l12systemTBL. 3	Aggregate	-	-
l12sysUnitAudioExtBnc	l12sysUnitAudioTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = INPUT 2 = OUTPUT
l12sysUnitAudioErrHdTBL	l12sysUnitAudioTBL. 2	Aggregate	-	-
l12sysUnitAudioErrorLevelOver	l12sysUnitAudioErrHdTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitAudioErrorClip	l12sysUnitAudioErrHdTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitAudioErrorClipDuration	l12sysUnitAudioErrHdTBL. 3	INTEGER	R/W	1 ~ 100
l12sysUnitAudioErrorMute	l12sysUnitAudioErrHdTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitAudioErrorMuteDuration	l12sysUnitAudioErrHdTBL. 5	INTEGER	R/W	1 ~ 5000
l12sysUnitAudioErrorParity	l12sysUnitAudioErrHdTBL. 6	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitAudioErrorVardity	l12sysUnitAudioErrHdTBL. 7	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitAudioErrorCrc	l12sysUnitAudioErrHdTBL. 8	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitAudioErrorCode	l12sysUnitAudioErrHdTBL. 9	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF

4. SNMP

● I12systemTBL (2) グループ

LV 58SER02 (EYE PATTERN unit)

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
I12sysUnitEyeTBL	I12systemTBL.4	Aggregate	-	-
I12sysUnitEyeErrHdTBL	I12sysUnitEyeTBL.1	Aggregate	-	-
I12sysUnitEyeErrHdAmp	I12sysUnitEyeErrHdTBL.1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrHdAmpUpper	I12sysUnitEyeErrHdTBL.2	INTEGER	R/W	80 ~ 140
I12sysUnitEyeErrHdAmpLower	I12sysUnitEyeErrHdTBL.3	INTEGER	R/W	40 ~ 100
I12sysUnitEyeErrHdRise	I12sysUnitEyeErrHdTBL.4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrHdRiseMax	I12sysUnitEyeErrHdTBL.5	INTEGER	R/W	40 ~ 140
I12sysUnitEyeErrHdFall	I12sysUnitEyeErrHdTBL.6	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrHdFallMax	I12sysUnitEyeErrHdTBL.7	INTEGER	R/W	40 ~ 140
I12sysUnitEyeErrHdDelta	I12sysUnitEyeErrHdTBL.8	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrHdDeltaMax	I12sysUnitEyeErrHdTBL.9	INTEGER	R/W	40 ~ 140
I12sysUnitEyeErrHdTimingJit	I12sysUnitEyeErrHdTBL.10	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrHdTimingJitMax	I12sysUnitEyeErrHdTBL.11	INTEGER	R/W	10 ~ 200
I12sysUnitEyeErrHdCurrentJit	I12sysUnitEyeErrHdTBL.12	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrHdCurrentJitMax	I12sysUnitEyeErrHdTBL.13	INTEGER	R/W	10 ~ 200
I12sysUnitEyeErrSdTBL	I12sysUnitEyeTBL.2	Aggregate	-	-
I12sysUnitEyeErrSdAmp	I12sysUnitEyeErrSdTBL.1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrSdAmpUpper	I12sysUnitEyeErrSdTBL.2	INTEGER	R/W	80 ~ 140
I12sysUnitEyeErrSdAmpLower	I12sysUnitEyeErrSdTBL.3	INTEGER	R/W	40 ~ 100
I12sysUnitEyeErrSdRise	I12sysUnitEyeErrSdTBL.4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrSdRiseMax	I12sysUnitEyeErrSdTBL.5	INTEGER	R/W	40 ~ 140
I12sysUnitEyeErrSdFall	I12sysUnitEyeErrSdTBL.6	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrSdFallMax	I12sysUnitEyeErrSdTBL.7	INTEGER	R/W	40 ~ 140
I12sysUnitEyeErrSdDelta	I12sysUnitEyeErrSdTBL.8	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrSdDeltaMax	I12sysUnitEyeErrSdTBL.9	INTEGER	R/W	40 ~ 140
I12sysUnitEyeErrSdTimingJit	I12sysUnitEyeErrSdTBL.10	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrSdTimingJitMax	I12sysUnitEyeErrSdTBL.11	INTEGER	R/W	10 ~ 200
I12sysUnitEyeErrSdCurrentJit	I12sysUnitEyeErrSdTBL.12	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12sysUnitEyeErrSdCurrentJitMax	I12sysUnitEyeErrSdTBL.13	INTEGER	R/W	10 ~ 200

4. SNMP

● l12systemTBL (2) グループ

LV 58SER04 (MPEG DECODER)

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12sysUnitMpegTBL	l12systemTBL. 11	Aggregate	-	-
l12sysUnitMpegSemiAutoSearch	l12sysUnitMpegTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrSyncByte	l12sysUnitMpegTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrContinuity	l12sysUnitMpegTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrPat	l12sysUnitMpegTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrPatCycle	l12sysUnitMpegTBL. 5	INTEGER	R/W	100 ~ 800
l12sysUnitMpegErrPmt	l12sysUnitMpegTBL. 6	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrPmtCycle	l12sysUnitMpegTBL. 7	INTEGER	R/W	100 ~ 800
l12sysUnitMpegErrPid	l12sysUnitMpegTBL. 8	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrPidCycle	l12sysUnitMpegTBL. 9	INTEGER	R/W	1 ~ 20
l12sysUnitMpegErrTransport	l12sysUnitMpegTBL. 10	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrCrc	l12sysUnitMpegTBL. 11	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrPcr	l12sysUnitMpegTBL. 12	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrPcrCycle	l12sysUnitMpegTBL. 13	INTEGER	R/W	10 ~ 200
l12sysUnitMpegErrAccuracy	l12sysUnitMpegTBL. 14	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrPts	l12sysUnitMpegTBL. 15	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrPtsCycle	l12sysUnitMpegTBL. 16	INTEGER	R/W	100 ~ 800
l12sysUnitMpegErrCat	l12sysUnitMpegTBL. 17	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12sysUnitMpegErrCatCycle	l12sysUnitMpegTBL. 18	OctetString	R/W	0.1 ~ 20.0

4. SNMP

● l12wfmTBL (3) グループ

※選択されている DISPLAY の MODE が WFM のとき有効

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12wfmDispTBL	l12wfmTBL. 1	Aggregate	-	-
l12wfmDispCh1	l12wfmDispTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12wfmDispCh2	l12wfmDispTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12wfmDispCh3	l12wfmDispTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12wfmDispOvlay	l12wfmDispTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12wfmIntenTBL	l12wfmTBL. 2	Aggregate	-	-
l12wfmIntenWfm	l12wfmIntenTBL. 1	INTEGER	R/W	-128 ~ 127
l12wfmIntenScale	l12wfmIntenTBL. 2	INTEGER	R/W	-8 ~ 7
l12wfmScaleTBL	l12wfmTBL. 3	Aggregate	-	-
l12wfmScaleUnit	l12wfmScaleTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = HDV-SDP 2 = HDV-SDV 3 = HDP-SDP
l12wfmScaleColor75per	l12wfmScaleTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12wfmScaleColor	l12wfmScaleTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = WHITE 2 = YELLOW 3 = CYAN 4 = GREEN 5 = MAGENTA 6 = RED 7 = BLUE
l12wfmColor	l12wfmScaleTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = WHITE 2 = GREEN 3 = MULTI
l12wfmGainTBL	l12wfmTBL. 4	Aggregate	-	-
l12wfmGainVar	l12wfmGainTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = CAL 2 = VAR
l12wfmGainVal	l12wfmGainTBL. 2	OctetString	R/W	0.200 ~ 2.000
l12wfmGainMag	l12wfmGainTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = X1 2 = X5
l12wfmSweepTBL	l12wfmTBL. 5	Aggregate	-	-
l12wfmSweepSweep	l12wfmSweepTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = H 2 = V
l12wfmSweepHSweep	l12wfmSweepTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = 1H 2 = 2H
l12wfmSweepVSweep	l12wfmSweepTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = 1V 2 = 2V
l12wfmSweepField	l12wfmSweepTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = FIELD1 2 = FIELD2
l12wfmSweepHMag	l12wfmSweepTBL. 5	INTEGER	R/W	1 = X1

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				2 = X10 3 = X20 4 = ACTIVE 5 = BLANK
l12wfmSweepVMag	l12wfmSweepTBL. 6	INTEGER	R/W	1 = X1 2 = X20 3 = X40
l12wfmLineSelTBL	l12wfmTBL. 6	Aggregate	-	-
l12wfmLineSelect	l12wfmLineSelTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12wfmLineField	l12wfmLineSelTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = FIELD1 2 = FIELD2 3 = FRAME
l12wfmLineNumber	l12wfmLineSelTBL. 3	INTEGER	R/W	1 ~ 1125
l12wfmFilterTBL	l12wfmTBL. 7	Aggregate	-	-
l12wfmFilterNormal	l12wfmFilterTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = FLAT 2 = LOWPASS
l12wfmFilterComposite	l12wfmFilterTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = FLAT 2 = FLAT-LUM 3 = FLAT-CHROMA
l12wfmBlankingTBL	l12wfmTBL. 8	Aggregate	-	-
l12wfmBlankingNormal	l12wfmBlankingTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = REMOVE 2 = H-VIEW 3 = V-VIEW 4 = ALL-VIEW
l12wfmBlankingComposite	l12wfmBlankingTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = REMOVE 2 = V-VIEW
l12wfmPersistTBL	l12wfmTBL. 9	Aggregate	-	-
l12wfmPersistence	l12wfmPersistTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF 3 = INFINIT
l12wfmPersistClear	l12wfmPersistTBL. 2	INTEGER	R/WO	1 = PERSIST CLEAR
l12wfmSpecialForm	l12wfmTBL. 10	INTEGER	R/W	1 = NORMAL 2 = TIMING 4 = 4Y-PARADE 5 = 4-PARADE
l12wfmMatrixTBL	l12wfmTBL. 11	Aggregate	-	-
l12wfmMatrix	l12wfmMatrixTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = YCBCR 2 = GBR 3 = RGB 4 = COMPOSITE
l12wfmMatrixYgbr	l12wfmMatrixTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12wfmMatrixYrgb	l12wfmMatrixTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12wfmMatrixSetup	l12wfmMatrixTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = OP

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				2 = 7.5P
l12wfmMatrixCompositeFormat	l12wfmMatrixTBL.5	INTEGER	R/W	1 = AUTO 2 = NTSC 3 = PAL

● l12vectorTBL (4) グループ

※選択されている DISPLAY の MODE が VECTOR のとき有効

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12vecIntenTBL	l12vectorTBL.1	Aggregate	-	-
l12vecIntenVector	l12vecIntenTBL.1	INTEGER	R/W	-128 ~ 127
l12vecIntenScale	l12vecIntenTBL.2	INTEGER	R/W	-8 ~ 7
l12vecScaleTBL	l12vectorTBL.2	Aggregate	-	-
l12vecScaleIq	l12vecScaleTBL.1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12vecScaleColor	l12vecScaleTBL.2	INTEGER	R/W	1 = WHITE 2 = YELLOW 3 = CYAN 4 = GREEN 5 = MAGENTA 6 = RED 7 = BLUE
l12vecColor	l12vecScaleTBL.3	INTEGER	R/W	1 = WHITE 2 = GREEN
l12vecGainTBL	l12vectorTBL.3	Aggregate	-	-
l12vecGainVar	l12vecGainTBL.1	INTEGER	R/W	1 = CAL 2 = VAR
l12vecGainVal	l12vecGainTBL.2	OctetStrin	R/W	0.200 ~ 2.000
l12vecGainMag	l12vecGainTBL.3	INTEGER	R/W	1 = X1 2 = X5 3 = 1Q
l12vecLineSelTBL	l12vectorTBL.4	Aggregate	-	-
l12vecLineSelect	l12vecLineSelTBL.1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12vecLineField	l12vecLineSelTBL.2	INTEGER INTEGER	R/W	1 = FIELD1 2 = FIELD2 3 = FRAME
l12vecLineNumber	l12vecLineSelTBL.3	INTEGER	R/W	1 ~ 1125
l12vecMatrixTBL	l12vectorTBL.5	Aggregate	-	-
l12vecMatrix	l12vecMatrixTBL.1	INTEGER	R/W	1 = COMPONENT 2 = COMPOSITE
l12vecMatrixSetup	l12vecMatrixTBL.2	INTEGER	R/W	1 = 0P 2 = 7.5P
l12vecMatrixColorbar	l12vecMatrixTBL.3	INTEGER	R/W	1 = 100P 2 = 75P
l12vecMatrixCompositeFormat	l12vecMatrixTBL.4	INTEGER	R/W	1 = AUTO 2 = NTSC

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				3 = PAL
l12vecMode	l12vectorTBL. 6	INTEGER	R/W	1 = VECTOR 2 = 5BAR
l12vecPersistTBL	l12vectorTBL. 7	Aggregate	-	-
l12vecPersistence	l12vecPersistTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF 3 = INFINIT
l12vecPersistClear	l12vecPersistTBL. 2	INTEGER	R/WO	1 = PERSIST CLEAR
l12vec5BarTBL	l12vectorTBL. 8	Aggregate	-	-
l12vec5BarMatrix	l12vec5BarTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = GBR 2 = RGB
l12vec5BarUnit	l12vec5BarTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = MV 2 = PER
l12vecAnalogTBL	l12vectorTBL. 9	Aggregate	-	-
l12vecAnalogFdMode	l12vecAnalogTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = PHASE 2 = LINE-SELECT
l12vecAnalogPhase	l12vecAnalogTBL. 2	OctetString	R/W	0.0 ~ 359.9
l12vecAnalogNtscDisplay	l12vecAnalogTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12vecSch	l12vecAnalogTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF

● l12pictureTBL (5) グループ

※選択されている DISPLAY の MODE が PICTURE のとき有効

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12picBright	l12pictureTBL. 1	INTEGER	R/W	-30 ~ 30
l12picContrast	l12pictureTBL. 2	OctetString	R/W	0.70 ~ 1.30
l12picGainTBL	l12pictureTBL. 3	Aggregate	-	-
l12picGainRed	l12picGainTBL. 1	OctetString	R/W	0.70 ~ 1.30
l12picGainGreen	l12picGainTBL. 2	OctetString	R/W	0.70 ~ 1.30
l12picGainBlue	l12picGainTBL. 3	OctetString	R/W	0.70 ~ 1.30
l12picBiasTBL	l12pictureTBL. 4	Aggregate	-	-
l12picBiasRed	l12picBiasTBL. 1	OctetString	R/W	-0.30 ~ 0.30
l12picBiasGreen	l12picBiasTBL. 2	OctetString	R/W	-0.30 ~ 0.30
l12picBiasBlue	l12picBiasTBL. 3	OctetString	R/W	-0.30 ~ 0.30
l12picMarkerTBL	l12pictureTBL. 5	Aggregate	-	-
l12picMarker43	l12picMarkerTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12picMarker169	l12picMarkerTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12picMarkerSafeAction	l12picMarkerTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12picMarkerSafeTitle	l12picMarkerTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12picMarkerSafeCenter	l12picMarkerTBL. 5	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12picLineSelTBL	l12pictureTBL. 6	Aggregate	-	-
l12picLineSelect	l12picLineSelTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12picLineField	l12picLineSelTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = FIELD1 2 = FIELD2 3 = FRAME
l12picLineNumber	l12picLineSelTBL. 2	INTEGER	R/W	1 ~ 1125
l12picSize	l12pictureTBL. 7	INTEGER	R/W	1 = FIT 2 = REAL 3 = FULL-FRM
l12picSImpsTBL	l12pictureTBL. 8	Aggregate	-	-
l12picSImpsStd	l12picSImpsTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = OFF 2 = SMPTE 3 = ARIB
l12picSImpsFmtSmpTE	l12picSImpsTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = FMT-608-708 2 = FMT-608-608 3 = FMT-VBI 4 = FMT-708
l12picSImpsDisp608	l12picSImpsTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = CC1 2 = CC2 3 = CC3 4 = CC4 5 = TEXT1 6 = TEXT2 7 = TEXT3 8 = TEXT4
l12picSImpsFmtAr ib	l12picSImpsTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = HD 2 = SD 3 = ANALOG 4 = CELLULAR
l12picSImpsDispAr ib	l12picSImpsTBL. 5	INTEGER	R/W	1 ~ 2
l12picSImpsDisp708	l12picSImpsTBL. 6	INTEGER	R/W	1 ~ 63
l12picGamutTBL	l12pictureTBL. 9	Aggregate	-	-
l12picGamutError	l12picGamutTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12picGamutPattern	l12picGamutTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = WHITE 2 = RED 3 = MESH
l12picDispTBL	l12pictureTBL. 10	Aggregate	-	-
l12picDispAfd	l12picDispTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF

4. SNMP

● I12audioTBL (6) グループ

※選択されている DISPLAY の MODE が AUDIO のとき有効

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
I12audChSelTBL	I12audioTBL. 1	Aggregate	-	-
I12audChSelNunmer	I12audChSelTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = 8CH 2 = 16CH
I12audChSelDisplay	I12audChSelTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = 1-8CH 2 = 9-16CH
I12audDisplayMode	I12audioTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = LISSAJOU 2 = S-IMAGE 3 = STATUS 4 = METER
I12audMeterTBL	I12audioTBL. 3	Aggregate	-	-
I12audMeterDRange	I12audMeterTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = -60DBFS 2 = -90DBFS
I12audMeterResponse	I12audMeterTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = TRUE PEAK 2 = PPM 3 = VU+TRUE 4 = VU+PPM 5 = PPM(I) 6 = PPM(II) 7 = VU+PPM(I) 8 = VU+PPM(II) 9 = LOUDNESS-F 10 = LOUDNESS-S
I12audMeterPeakHold	I12audMeterTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = 0.5SEC 2 = 1SEC 3 = 1.5SEC 4 = 2SEC 5 = 2.5SEC 6 = 3SEC 7 = 3.5SEC 8 = 4SEC 9 = 4.5SEC 10 = 5SEC 11 = HOLD
I12audMeterOverLevel	I12audMeterTBL. 4	OctetString	R/W	-40.0 ~ 0.0
I12audMeterWarningLevel	I12audMeterTBL. 5	OctetString	R/W	-40.0 ~ 0.0
I12audMeterRefLevel	I12audMeterTBL. 6	OctetString	R/W	-40.0 ~ 0.0
I12audLissajouTBL	I12audioTBL. 4	Aggregate	-	-
I12audLissajouIntenTBL	I12audLissajouTBL. 1	Aggregate	-	-
I12audLissajouIntenLissajou	I12audLissajouIntenTBL. 1	INTEGER	R/W	-128 ~ 127
I12audLissajouIntenScale	I12audLissajouIntenTBL. 2	INTEGER	R/W	-8 ~ 7
I12audLissajouDisplay	I12audLissajouTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = SINGLE 2 = MULTI
I12audLissajouForm	I12audLissajouTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = X-Y 2 = MATRIX

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
I12audLissajouAutoGain	I12audLissajouTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
I12audLissajouMapTBL	I12audLissajouTBL. 5	Aggregate	-	-
I12audLissajouMapSingleL	I12audLissajouMapTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16 17 = LT
I12audLissajouMapSingleR	I12audLissajouMapTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16 17 = RT
I12audLissajouMapMultiL1	I12audLissajouMapTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiR1	l12audLissajouMapTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiL2	l12audLissajouMapTBL. 5	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiR2	l12audLissajouMapTBL. 6	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiL3	l12audLissajouMapTBL. 7	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiR3	l12audLissajouMapTBL. 8	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiL4	l12audLissajouMapTBL. 9	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiR4	l12audLissajouMapTBL. 10	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiL5	l12audLissajouMapTBL. 11	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiR5	l12audLissajouMapTBL. 12	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiL6	l12audLissajouMapTBL. 13	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiR6	l12audLissajouMapTBL. 14	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiL7	l12audLissajouMapTBL. 15	INTEGER	R/W	1 = CH1

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiR7	l12audLissajouMapTBL. 16	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audlissajouMapMultiL8	l12audLissajouMapTBL. 17	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				16 = CH16
l12audLissajouMapMultiR8	l12audLissajouMapTBL. 18	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audSImageTBL	l12audioTBL. 5	Aggregate	-	-
l12audSImageIntenTBL	l12audSImageTBL. 1	Aggregate	-	-
l12audSImageIntenSImage	l12audSImageIntenTBL. 1	INTEGER	R/W	-128 ~ 127
l12audSImageIntenScale	l12audSImageIntenTBL. 2	INTEGER	R/W	-8 ~ 7
l12audSImageSurround	l12audSImageTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = 3-1 2 = 3-2 3 = 3-2-2
l12audSImageAutoGain	l12audSImageTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12audSImageMapTBL	l12audSImageTBL. 4	Aggregate	-	-
l12audSImageMapL	l12audSImageMapTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audSImageMapR	l12audSImageMapTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audSImageMapLs	l12audSImageMapTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audSImageMapRs	l12audSImageMapTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audSImageMapC	l12audSImageMapTBL. 5	INTEGER	R/W	1 = CH1

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audSImageMapLfe	l12audSImageMapTBL. 6	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audSImageMapLI	l12audSImageMapTBL. 7	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				16 = CH16
I12audSImageMapRr	I12audSImageMapTBL. 8	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
I12audStatusTBL	I12audioTBL. 6	Aggregate	-	-
I12audStatusDisplay	I12audStatusTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = DEFAULT 2 = CH-STATUS 3 = USER-BIT
I12audStatusChStatus	I12audStatusTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9 10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
I12audStatusUserBit	I12audStatusTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = CH1 2 = CH2 3 = CH3 4 = CH4 5 = CH5 6 = CH6 7 = CH7 8 = CH8 9 = CH9

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				10 = CH10 11 = CH11 12 = CH12 13 = CH13 14 = CH14 15 = CH15 16 = CH16
l12audStatusErrorReset	l12audStatusTBL. 4	INTEGER	R/WO	1 = Error Reset
l12audStatusStatusAlign	l12audStatusTBL. 5	INTEGER	R/W	1 = LSB 1st 2 = MSB 1st
l12audStatusUserAlign	l12audStatusTBL. 6	INTEGER	R/W	1 = LSB 1st 2 = MSB 1st
l12audPhonesTBL	l12audioTBL. 7	Aggregate	-	-
l12audPhonesLRCh	l12audPhonesTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ch1-2 2 = ch3-4 3 = ch5-6 4 = ch7-8 5 = ch9-10 6 = ch11-12 7 = ch13-14 8 = ch15-16 9 = Lt/Rt 10 = AUX1/AUX2 11 = L/R
l12audDoIbyTBL	l12audioTBL. 8	Aggregate	-	-
l12audDoIbyMode	l12audDoIbyTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = E 2 = OFF 3 = AC-3
l12audDoIbyGroup	l12audDoIbyTBL. 2	INTEGER	R/W	1 = ch1-2 2 = ch3-4 3 = ch5-6 4 = ch7-8 5 = ch9-10 6 = ch11-12 7 = ch13-14 8 = ch15-16
l12audDoIbyEDialnorm	l12audDoIbyTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12audDoIbyEPull down	l12audDoIbyTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12audDoIbyEMetaPrm	l12audDoIbyTBL. 5	INTEGER	R/W	1 = PRM1 2 = PRM2 3 = PRM3 4 = PRM4 5 = PRM5 6 = PRM6

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				7 = PRM7 8 = PRM8
l12audDoIbyDLlistening	l12audDoIbyTBL. 6	INTEGER	R/W	1 = FULL 2 = EX 3 = 3stereo 4 = PHANTOM 5 = STEREO 6 = MONO
l12audDoIbyDPrologic	l12audDoIbyTBL. 7	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12audDoIbyDDrc	l12audDoIbyTBL. 8	INTEGER	R/W	1 = BYPASS 2 = LINE 3 = RF
l12audDoIbyAuxCh	l12audDoIbyTBL. 9	INTEGER	R/W	1 = LtRt 2 = LoRo 3 = MONO 4 = MUTE
l12audDoIbyAuxChDrc	l12audDoIbyTBL. 10	INTEGER	R/W	1 = LINE 2 = RF
l12audDoIbyEbiMetaPrm	l12audDoIbyTBL. 11	INTEGER	R/W	1 = PRM1 2 = PRM2 3 = PRM3 4 = PRM4 5 = PRM5 6 = PRM6 7 = PRM7 8 = PRM8
l12audInputSelect	l12audioTBL. 9	INTEGER	R/W	1 = DIGITAL 2 = ANALOG

4. SNMP

● l12statusTBL (7) グループ

※選択されている DISPLAY の MODE が STATUS のとき有効

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12staCounter	l12statusTBL.1	INTEGER	R/W	1 = SEC 2 = FIELD 3 = PER-FIELD
l12staReset	l12statusTBL.2	INTEGER	R/WO	1 = STATUS RESET
l12staLogTBL	l12statusTBL.3	Aggregate	-	-
l12staLog	l12staLogTBL.1	INTEGER	R/WO	1 = LOG DISPLAY
l12staLogLog	l12staLogTBL.2	INTEGER	R/W	1 = START 2 = STOP
l12staLogMode	l12staLogTBL.3	INTEGER	R/W	1 = OVER-WR 2 = STOP
l12staLogClear	l12staLogTBL.4	INTEGER	R/WO	1 = LOG CLEAR
l12staDumpTBL	l12statusTBL.4	Aggregate	-	-
l12staDump	l12staDumpTBL.1	INTEGER	R/WO	1 = DUMP DISPLAY
l12staDumpMode	l12staDumpTBL.2	INTEGER	R/W	1 = RUN 2 = HOLD 3 = FRM-CAP
l12staDumpDisplay	l12staDumpTBL.3	INTEGER	R/W	1 = SERIAL 2 = COMPONENT 3 = BINARY
l12staDumpDisplayDual	l12staDumpTBL.4	INTEGER	R/W	1 = A 2 = B 3 = A/B
l12staDumpLineNumber	l12staDumpTBL.5	INTEGER	R/W	1 ~ 1125
l12staDumpSample	l12staDumpTBL.6	INTEGER	R/W	0 ~ 2199
l12staDumpEav	l12staDumpTBL.7	INTEGER	R/WO	1 = EAV DISPLAY
l12staDumpSav	l12staDumpTBL.8	INTEGER	R/WO	1 = SAV DISPLAY

● l12eyeTBL (8) グループ

※選択されている DISPLAY の MODE が EYE のとき有効

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12eyeIntenTBL	l12eyeTBL.1	Aggregate	-	-
l12eyeIntenEye	l12eyeIntenTBL.1	INTEGER	R/W	-128 ~ 127
l12eyeIntenScale	l12eyeIntenTBL.2	INTEGER	R/W	-8 ~ 7
l12eyeMode	l12eyeTBL.2	INTEGER	R/W	1 = EYE 2 = JITTER
l12eyeAutoMeasure	l12eyeTBL.3	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12eyeGainTBL	l12eyeTBL.4	Aggregate	-	-
l12eyeGainVar	l12eyeGainTBL.1	INTEGER	R/W	1 = CAL 2 = VAR
l12eyeGainVal	l12eyeGainTBL.2	OctetString	R/W	0.50 ~ 2.00
l12eyeSweepSweep	l12eyeTBL.5	INTEGER	R/W	1 = 2UI 2 = 4UI 3 = 16UI
l12eyeFilter	l12eyeTBL.6	INTEGER	R/W	1 = 100kHz

4. SNMP

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
				2 = 1kHz 3 = 100Hz 4 = 10Hz 5 = Timing 6 = Alignment
l12eyeJitterTBL	l12eyeTBL. 7	Aggregate	-	-
l12eyeJitterPeakHold	l12eyeJitterTBL. 1	INTEGER	R/W	1 = ON 2 = OFF
l12eyeJitterPeakClear	l12eyeJitterTBL. 2	INTEGER	R/WO	1 = PEAK CLEAR
l12eyeJitterGain	l12eyeJitterTBL. 3	INTEGER	R/W	1 = X1 2 = X2 3 = X8
l12eyeJitterSweep	l12eyeJitterTBL. 4	INTEGER	R/W	1 = 1H 2 = 2H 3 = 1V 4 = 2V
l12eyeJitterFilter	l12eyeJitterTBL. 5	INTEGER	R/W	1 = 100kHz 2 = 1kHz 3 = 100Hz 4 = 10Hz 5 = Timing 6 = Alignment
l12eyeMonTBL	l12eyeTBL. 8	Aggregate	-	-
l12eyeAmplitude (※1)	l12eyeMonTBL. 1	OctetString	R/O	0.0 ~1200.0mV 測定不能:---
l12eyeTr (※1)	l12eyeMonTBL. 2	OctetString	R/O	HD:0 ~ 674ps SD:0 ~ 3700ps 測定不能:---
l12eyeTf (※1)	l12eyeMonTBL. 3	OctetString	R/O	HD:0 ~ 674ps SD:0 ~ 3700ps 測定不能:---
l12eyeTimingJitterPs (※2)	l12eyeMonTBL. 4	OctetString	R/O	HD:0 ~ 6470ps SD:0 ~ 35520ps 測定不能:---
l12eyeTimingJitterUi (※2)	l12eyeMonTBL. 5	OctetString	R/O	HD:0 ~ 9.600UIp-p SD:0 ~ 9.600UIp-p 測定不能:---
l12eyeCurrentJitterPs (※2)	l12eyeMonTBL. 6	OctetString	R/O	HD:0 ~ 6470ps SD:0 ~ 35520ps 測定不能:---
l12eyeCurrentJitterUi (※2)	l12eyeMonTBL. 7	OctetString	R/O	HD:0 ~ 9.600UIp-p SD:0 ~ 9.600UIp-p 測定不能:---

※1 アイパターン表示時に有効です。そのとき表示している測定値を送ります。

※2 ジッタ表示時に有効です。そのとき表示している測定値を送ります。

4. SNMP

● l12trapTBL (9) グループ

MIB	OID	SYNTAX	ACCESS	VALUE/RANGE
l12trapStrTBL	l12trapTBL.1	Aggregate	-	--(Variable Binding List)
l12trapIpTBL	l12trapTBL.2	Aggregate	-	-
l12trapIp1TBL	l12trapipTBL.1	Aggregate	-	-
l12trapManagerIp1	l12trapIp1TBL.1	IpAddress	R/W	Trapの送信先 マネージャ IP アドレス 1
l12trapManagerIp1Act	l12trapIp1TBL.2	INTEGER	R/W	1 = ENABLE 2 = DISABLE
l12trapIp2TBL	l12trapipTBL.2	Aggregate	-	-
l12trapManagerIp2	l12trapIp2TBL.1	IpAddress	R/W	Trapの送信先 マネージャ IP アドレス 2
l12trapManagerIp2Act	l12trapIp2TBL.2	INTEGER	R/W	1 = ENABLE 2 = DISABLE
l12trapIp3TBL	l12trapipTBL.3	Aggregate	-	-
l12trapManagerIp3	l12trapIp3TBL.1	IpAddress	R/W	Trapの送信先 マネージャ IP アドレス 3
l12trapManagerIp3Act	l12trapIp3TBL.2	INTEGER	R/W	1 = ENABLE 2 = DISABLE
l12trapIp4TBL	l12trapipTBL.4	Aggregate	-	-
l12trapManagerIp4	l12trapIp4TBL.1	IpAddress	R/W	Trapの送信先 マネージャ IP アドレス 4
l12trapManagerIp4Act	l12trapIp4TBL.2	INTEGER	R/W	1 = ENABLE 2 = DISABLE
l12TrapStatusTBL	l12trapTBL.4	Aggregate	-	-
l12TrapStaCableLen	l12TrapStatusTBL.1	INTEGER	R/O	Cable Warning 用 --(Variable Binding List)

4.3 拡張TRAP

本器の拡張 TRAP について説明します。

1 秒間に 1 回以上のイベントが連続発生すると、本体の TRAP 処理は間に合わなくなります。TRAP 用のバッファは 1000 イベント分用意していますが、これを超えた分の TRAP は処理されません。

4.3.1 Specific Trap

内容	Specific Trap Type	内容	Specific Trap Type
FAN 停止の検出	1	レベルエラーの検出 (LUMA)	25
NO SIGNAL	3	レベルエラーの検出 (CHROMA)	26
ラインナンバーエラーの検出	6	UnKnown (Format)	27
CRC エラーの検出 (LUMA)	7	エラー無し (エラー復帰時&起動時)	37
CRC エラーの検出 (CHROMA)	8	パリティエラーの検出 (AUDIO)	40
チェックサムエラーの検出	9	DBN エラーの検出 (AUDIO)	41
BCH エラーの検出	10	INH エラーの検出 (AUDIO)	42
EDH エラーの検出	11	振幅エラーの検出 (EYE:HD)	60
リザーブドエリアエラーの検出	12	Risetime エラーの検出 (EYE:HD)	61
パリティエラーの検出	13	Falltime エラーの検出 (EYE:HD)	62
TRS エラーの検出 (POS)	15	Deltatime エラーの検出 (EYE:HD)	63
TRS エラーの検出 (CODE)	16	Timing ジッタエラーの検出 (EYE:HD)	64
フリーズエラーの検出	17	Current ジッタエラーの検出 (EYE:HD)	65
ブラックアウトエラーの検出	18	振幅エラーの検出 (EYE:SD)	66
等価線長計エラーの検出	19	Risetime エラーの検出 (EYE:SD)	67
等価線長計ウォーニングの検出	20	Falltime エラーの検出 (EYE:SD)	68
SDI DELAY エラーの検出	21	Deltatime エラーの検出 (EYE:SD)	69
ガマットエラーの検出	23	Timing ジッタエラーの検出 (EYE:SD)	70
コンポジットガマットエラーの検出	24	Current ジッタエラーの検出 (EYE:SD)	71

4.3.2 Variable Binding List

● index 1

OID : leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).trapTBL(9).trapStrTBL(1).1.0
 Syntax : Counter
 範囲 : 1~4294967295 (範囲を超えた場合はオーバーフローします)
 内容 : 起動してからの Enterprise Trap の送出累計数

● index 2

OID : leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).trapTBL(9).trapStrTBL(1).2.0
 Syntax : Octet String
 範囲 : 最大 40 文字
 内容 : エラー発生時の日時と回線情報
 YYYY/MM/DD hh:mm:ss mod, sdi
 YYYY = 年、MM = 月、DD = 日、hh = 時、mm = 分、ss = 秒、
 mod = ユニット番号 (1~4)、sdi = 入力チャンネル (AorB)
 (例 : 2007/07/02 11:30:11 1, A)

● index 3

OID : leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).trapTBL(9).trapStrTBL(1).3.0
 Syntax : Octet String
 範囲 : 最大 40 文字
 内容 : フォーマット情報 (次頁「TRAP 用フォーマット情報一覧表」参照)
 (例 : 1080sF/30)

● index 4

OID : leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).trapTBL(9).trapStrTBL(1).4.0
 Syntax : Octet String
 範囲 : 最大 40 文字
 内容 : エラー情報 (次頁「TRAP 用エラー情報一覧表」参照)
 (例 : TRS_P_ERR)

● index 5

OID : leader(20111).lv7800(12).lv7800ST1(1).trapTBL(9).trapStrTBL(1).5.0
 Syntax : INTEGER
 範囲 : 1~4294967295 (m)
 内容 : エラー検出時の線長計情報

※ 等価線長計エラーの検出、等価線長計ウォーニングの検出のみに添付

4. SNMP

TRAP 用フォーマット情報一覧表

書式	フォーマット
1080i/60	1080i/60
1080sF/30	1080sF/30
1080i/59.94	1080i/59.94
1080sF/29.97	1080sF/29.97
1080i/50	1080i/50
1080sF/25	1080sF/25
1080sF/24	1080sF/24
1080sF/23.98	1080sF/23.98
1080p/60	1080p/60
1080p/59.94	1080p/59.94
1080p/50	1080p/50
1080p/30	1080p/30
1080p/29.97	1080p/29.97
1080p/25	1080p/25
1080p/24	1080p/24
1080p/23.98	1080p/23.98
720p/60	720p/60
720p/59.94	720p/59.94
720p/50	720p/50
720p/30	720p/30
720p/29.97	720p/29.97
720p/25	720p/25
720p/24	720p/24
720p/23.98	720p/23.98
525i/59.94	525i/59.94
625i/50	625i/50
UnKnown	UnKnown
NO_SIGNAL	NO SIGNAL

TRAP 用エラー情報一覧表

書式	内容
CRC_Y_ERR	CRC エラーの検出 (LUMA)
CRC_C_ERR	CRC エラーの検出 (CHROMA)
EDH_ERR	EDH エラーの検出
TRS_P_ERR	TRS エラーの検出 (POS)
TRS_C_ERR	TRS エラーの検出 (CODE)
ILLEGAL_ERR	リザーブドエリアエラーの検出
LINE_ERR	ラインナンバーエラーの検出
CABLE_ERR	等価線長計エラーの検出
CABLE_WAR	等価線長計ウォーニングの検出
CHK_ERR	チェックサムエラーの検出
PRTY_ERR	パリティエラーの検出
GMUT_ERR	ガマットエラーの検出
CGMUT_ERR	コンポジットガマットエラーの検出
LVL_L_ERR	レベルエラーの検出 (LUMA)
LVL_C_ERR	レベルエラーの検出 (CHROMA)
FRZ_ERR	フリーズエラーの検出
BLK_ERR	ブラックアウトエラーの検出
BCH_ERR	BCH エラーの検出
A_PRTY_ERR	パリティエラーの検出 (AUDIO)
A_DBN_ERR	DBN エラーの検出 (AUDIO)
A_INH_ERR	INH エラーの検出 (AUDIO)
EYE_HD_AMP_ERR	振幅エラーの検出 (EYE:HD)
EYE_HD_TR_ERR	Risetime エラーの検出 (EYE:HD)
EYE_HD_TF_ERR	Falltime エラーの検出 (EYE:HD)
EYE_HD_TR_TF_ERR	Deltatime エラーの検出 (EYE:HD)
EYE_HD_T_JIT_ERR	Timing ジッタエラーの検出 (EYE:HD)
EYE_HD_A_JIT_ERR	Current ジッタエラーの検出 (EYE:HD)
EYE_SD_AMP_ERR	振幅エラーの検出 (EYE:SD)
EYE_SD_TR_ERR	Risetime エラーの検出 (EYE:SD)
EYE_SD_TR_TF_ERR	Deltatime エラーの検出 (EYE:SD)
EYE_SD_T_JIT_ERR	Timing ジッタエラーの検出 (EYE:SD)
EYE_SD_A_JIT_ERR	Current ジッタエラーの検出 (EYE:SD)
SDI_DELAY_ERR	SDI DELAY エラーの検出
FAN_STOP	FAN 停止の検出

5. ファームウェアの変更履歴

本書はファームウェアバージョン 5.5 に基づいて作成されています。

バージョンを確認するには、**SYS** → **F・5** SYSTEM INFORMATION の順にキーを押してください。

LEADER

リーダ一電子株式会社 <http://www.leader.co.jp>

本社・国内営業部 〒223-8505 横浜市港北区綱島東 2-6-33 (045) 541-2122 (代表)